令和６年度　文部科学省委託調査研究事業
「幼児教育に関する大規模縦断調査」

縦断１年目調査（2024 調査）
報告書（詳細版）

令和８年２月

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター

The Center for
Early Childhood Development,
Education, and Policy Research

目次

1.　はじめに **2**

2.　調査の概要 **3**

2-1.「幼児教育に関する大規模縦断調査」事業の概要 3

2-2.　2024 調査の概要 14

3.　保護者調査　集計結果 **26**

3-1. 結果と考察 26

3-2. 保護者調査　質問項目一覧 80

4.　担任保育者調査　集計結果 **91**

4-1. 結果と考察 91

4-2. 担任保育者調査　質問項目一覧 119

5.　園長等調査　集計結果 **128**

5-1. 結果と考察 128

5-2. 園長等調査　質問項目一覧 173

6.　おわりに **189**

7.　引用文献 **192**

調査研究実行委員会 **197**

1.　はじめに

近年，世界各地で展開される長期縦断研究を通じて，幼少期における家庭内外での様々な経験のあり方が，その後の人の生涯にわたる心と身体の健康や幸せの形成などに対して多大な影響をもたらし得ることが実証的に示されてきています。しかし，日本においては，これまで，とりわけ幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）における幼児教育・保育の質が，その後の子どもの認知・非認知両面の発達にいかにつながるかということに関わるデータの収集が，十分な形ではなされてこなかったと言わざるを得ません。そこで，私ども東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）は，文部科学省の委託を受けて，それに関する大規模な縦断調査を 2024 年度より開始いたしました。

今回，報告させていただくのは，開始初年度に実施した保護者，担任保育者，園長等対象の調査の集計結果であります。これらは，現今の日本における就学前の家庭での子どもの生活や養育の環境および保護者と子どもとの関わりの実態，そしてまた，園での幼児教育・保育実践の内容や幼保小接続を意識した取り組みなどの実状を知る上で，有用な基礎資料になっているものと考えられます。

今後，私どもは縦断調査のデータの集積とともに，逐次，中間的な分析結果を提示させていただく所存ですが，まずは，こうした日本における幼児教育・保育および家庭での養育・教育の現況について，一度，お目通しいただき，今後の研究展開に向けて，幅広く様々なご意見等を頂戴できればと，切に願うものであります。

東京大学大学院教育学研究科・教授　遠藤　利彦

2.　調査の概要

2-1.「幼児教育に関する大規模縦断調査」事業の概要

「幼児教育に関する大規模縦断調査」の目的

生涯にわたる心理社会的適応や幸福の基盤となる資質能力を形成する上で，乳幼児期に経験する幼児教育・保育（Early Childhood Education and Care: ECEC）が重要な役割を果たすことが，海外の縦断研究の結果から明らかになってきている。一方で，そうした大規模な縦断研究はアメリカなど一部の国に偏って実施されており，かつ，幼児教育・保育はその国の社会，文化，制度に深く根差したものであるため，それら研究知見を他の国にそのまま当てはめることができないことも指摘されている（e.g., Hung et al., 2024）。日本では，家庭を対象とした縦断調査はいくつか行われてきたものの，全国規模で園の幼児教育・保育のデータと家庭のデータを紐づけてその後の発達を追跡する縦断調査はほとんど見当たらず，幼児教育・保育に関する政策形成や実践向上のエビデンスとなりうるデータが乏しいという現状がある。

そこで，本事業では，全国を 8 地域に分け，それぞれの地域から大規模，中規模，小規模の基礎自治体に偏りなくサンプリングした計 75 の基礎自治体の，幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）およびそこに通う 5 歳児の保護者，そして，子どもが小学校に就学後は，保護者および各小学校等を対象に，まずは 5 年間の調査を実施し，家庭のデータと園・学校のデータとを紐づけた分析を行う。その目的は，幼児期および幼保小接続期の教育・保育がその後の子どもの発達に及ぼす影響について実証的に明らかにし，今後の教育政策のためのエビデンスを提供することである。

「幼児教育に関する大規模縦断調査」の背景と特徴

ここでは，本事業の背景について簡潔に述べる。幼児教育・保育の質に関する研究の詳しいレビューについては，西田他（2025）を参照されたい。

幼児教育・保育が子どもの発達に及ぼす影響についての研究知見は，海外の縦断研究に拠るところが大きい。その最も有名なものの一つに，「ハイ／スコープ・ペリー・プリスクール研究（High/Scope Perry Preschool Study）」がある。この研究プロジェクトでは，アメリカ・ミシガン州の貧困地域の家庭の子どもたちを対象に，特定の幼児教育および家庭訪問のプログラムを受けるグループと受けないグループを設け，両グループの子どもたちを長期間にわたって追跡し比較調査を行った。その結果，幼児期にプログラムを受けたグループは，受けなかったグループに比べ，40 歳になった時点で，学業達成度や所得，子どもをもつ率

などが高く，犯罪率や生活保障費受給率が低いということが明らかになった（Belfield et al., 2006）。幼児期の教育が子どもに長期的な影響を及ぼすことを実証したこの研究知見により，幼児教育の教育政策上の重要性の認識が世界的に高まることとなった。一方で，この研究は，特定の幼児教育プログラムを受けたか受けなかったかの比較であり，プログラムのどのような側面がどのように子どもの発達にポジティブな効果をもたらすのかについては明らかにできていない。また，このプロジェクトのような，相対的に不利な環境に育つ少人数の子どもたちを対象とした介入研究は，一般化可能性に限界があることも指摘されている。

これらの問題点を克服すべく，1980 年代以降の欧米では，幼児教育・保育の質を測定するツールが開発され，1990 年代以降それらのツールを用いた，幅広い経済階層を含む一般的な集団を対象とした大規模な縦断調査が実施されるようになった。例えば，アメリカの国立小児保健発達研究所（National Institute of Child Health and Human Development: NICHD）での「保育と子どもの発達研究（Study of Early Childhood Child Care and Youth Development: SECCYD）」は，1991 年に生まれた子ども 1,364 人を 0 歳から追跡している。この調査の 0 歳から 4 歳半までのデータの分析によって，幼児教育・保育の質が子どもの発達に関連することが示され（NICHD Early Child Care Research Network: ECCRN, 2005），その影響は小学校期以降も長期的に認められることが示された（Vandell et al, 2010）。また，イギリス（イングランド）の「就学前教育の効果的提供（Effective Provision of Pre-School Education; EPPE）」プロジェクトでは，3,000 人以上の子どもを対象に，多様な形態の幼児教育・保育の効果を追跡調査している。その結果，幼児教育・保育の質の高さと読解力や数学の成績，社会的スキルなどとの関連は，16 歳時点まで（多少小さくなりながらも）継続したことが示された（Taggart et al., 2015）。これら複数の調査のデータを使って行われたメタ分析においても，幼児教育・保育の質が子どもの発達と学習に影響を与えるという結果は概ね一貫していると報告されている（e.g., Melhuish et al., 2015; Organization for Economic Cooperation and Development: OECD, 2018）。

こうした研究知見から導き出された「幼児教育・保育の質の向上が子どものアウトカムを間接的または直接的に向上させる」という仮定に基づき，各国では，調査結果を幼児教育・保育の政策形成や指針・基準等の検討に活用することが進められてきた（OECD, 2015）。一方で，von Suchodoletz et al.（2023）によるメタ分析では，幼児教育・保育の質が幼児期の子どもの発達に重要な役割を果たすという点では従前のメタ分析と一致する結果が得られたとしつつ，以下の 2 点の限界を指摘している。一つには，メタ分析のサンプルとなりうる大規模調査あるいは縦断調査の大半がアメリカで実施されているという限界である。それらのアメリカのサンプルの一般的なパターンをなぞるような分析結果は，他国の状況には当てはまらない可能性がある。二つに，具体的にどのような幼児教育・保育の質の指標が子どものアウトカムと関連するのかという詳細な分析結果は，研究によって関連の大きさがまちまちで一貫性がないという限界である。このようなことから，日本においても，こうした海外の研究知見をそのまま取り入れるのではなく，日本で行われた大規模な縦断調査の知

見に基づいて，幼児教育・保育の政策形成や指針・基準等の検討を行うことが必要であると考えられる。

日本では，21 世紀出生児縦断調査（二次分析として Yamaguchi et al., 2018）や，ベネッセ教育総合研究所と東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（以下，東京大学 CEDEP）が共同研究として実施している「乳幼児の生活と育ち」プロジェクト（ベネッセ教育総合研究所，2023）等，子どもの発達に注目した規模の大きい縦断調査がいくつか行われている。それらの調査研究によって，家庭での養育がもたらす影響については一定の知見が得られつつある。ただし，これまで日本で行われてきたこれらの縦断調査は，基本的に保護者の回答のみに基づいている。幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）での経験がもたらす影響に関しては，保護者が回答しうるものとして専ら，保育利用時間や通園期間など，保育の量の側面のみが取り上げられ，幼児教育・保育の質に関する精緻な検討は，ほとんどなされてこなかった。諸外国の研究知見を踏まえると，子どもが家庭外で受ける幼児教育・保育の質が子どもの発達に及ぼす影響を，家庭内の教育の影響と切り分けられるかたちで分析し明らかにする研究知見こそが，これからの幼児教育・保育の政策形成や指針・基準等の検討のために必要だと考えられる。

幼児教育・保育の質に重点を置き，それが子どもの発達に及ぼす影響を精緻に調べる上では，質をどのように測定するのかが肝要となる。幼児教育・保育の質については，従来の研究で主に構造の質とプロセスの質という側面から検討されてきた。構造の質とは，保育者と子どもの比率，クラスサイズ，保育者の資格等，構造的に規定される側面を指し，プロセスの質は，保育者の子どもへのかかわり，子ども同士のかかわり等，保育の中核となる実践の質を指す（Slot, 2018）。複数の研究で，構造の質とプロセスの質の関連，プロセスの質と子どもの発達との関連が示されている（e.g., NICHD ECCRN, 2005; Yoshikawa & Kabay, 2015）。構造の質については制度上の規定により自ずとどのような観点で評価すべきかが導かれるが，プロセスの質は実践のあり方を問うものであり，幼児教育・保育の多様な内容や方法を含みうる。例えば，代表的な評価スケールの一つである「新・保育環境評価スケール①3 歳以上（Early Childhood Environment Rating Scale: ECERS-3）」（ハームス他，2016）では，6 つのサブスケール（空間と家具，養護，言葉と文字，活動，相互関係，保育の構造）に分類された 35 項目について評価を行う。ただし，このスケールはアメリカで開発されたものであるため，日本の幼児教育・保育にそのまま適用することが難しい項目も含まれる。また，調査者の観察により評価を行うものであるため，大規模サンプルを対象とした実施はコストの面で非現実的である。

保育者自身に幼児教育・保育の実践について尋ねる調査票としては，東京大学 CEDEP が 2015 年に実施した「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」で作成したものがある（東京大学 CEDEP, 2015）。これは，保育室の環境構成および保育者のかかわりについて，保育者自身に評価を求めるものである。項目の作成にあたっては，欧米で開発され，多くの国の調査で使用されている複数の保育の質の評価スケール「新・保育環境評

価スケール」の乳児版（Infant/Toddler Environment Rating Scale: ITERS-R）（ハームス他, 2018）と幼児版（ECERS-R）（ハームス他，2016），「保育プロセスの質評価スケール」（Sustained Shared Thinking and Emotional Well Being: SSTEW）（シラージ他，2016），The Classroom Assessment Scoring System（CLASS; Pianta et al., 2007），そして，A Process-oriented Self-evaluation Instrument for Care Settings（SICS）の日本版（「保育プロセスの質」研究プロジェクト，2010）を参照しつつ，日本の ECEC 現場になじむように ECEC 実践者からの助言を受け作成されている。しかし，2017 年の幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の，いわゆる 3 要領・指針の改定内容を踏まえた上で，改めて項目内容を精査する必要がある。

本事業では，これらの課題意識に基づき，主に以下 3 つの特徴をもつ調査を設計した。一つ目の特徴は，幼児教育・保育の質に重点を置き，構造の質，プロセスの質といった側面から幼児教育・保育の質を捉える質問票を作成し，それを用いて大規模な縦断調査を行う点である。質問紙での定量化は観察評定での定量化に比べ，望ましさバイアスにより園差が出にくいことが指摘されている（Kopcha & Sullivan, 2007）。一方で，質問紙はかかるコストが相対的に小さく，大規模サンプルでの実施が可能という利点もある。より適切に幼児教育・保育の質を捉えるために，質問票の作成に当たっては予備調査を行い，項目を精査した上で縦断調査に用いることとする。二つ目の特徴は，幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）を基点としたサンプリングを行い，家庭のデータを園のデータに紐づけて縦断調査を行うことである。それにより，幼児教育・保育の質が子どもの発達に及ぼす影響を，家庭内の教育の影響と切り分けて分析することが可能となる。そして，三つ目の特徴は，地域の違いや自治体規模の違い，施設の種別や公私の別など，日本国内の多様な状況を考慮することである。地域については，全国を 8 地域に分け，地域間比較を可能にするため，サンプルサイズを均等に割り付けた。各地域においては，自治体を人口規模により大中小に分類した上で，施設類型（幼稚園・保育所・認定こども園），設置主体（国公私立）と合わせ，それぞれが実際の人口比率に近い割合になるようサンプリングを行った。

なお，縦断調査に先立ち，2023 年度に，全国 37 市区町村の園からの協力を得て，調査の実施フローの確認や質問紙項目の精査を目的とした予備調査（2023 予備調査）を行った。その集計結果等は，2023 予備調査報告書（東京大学 CEDEP，2025）を参照されたい。

「幼児教育に関する大規模縦断調査」の調査設計

2024（令和 6）年度時点で 5 歳児（年長児）クラスに在籍する子どもの，教育・保育の経験と発達について，まずは小学 4 年生までの縦断調査を実施する。調査は WEB 質問紙調査で行う。

縦断調査全体において，対象となるのは以下のとおりである。

① 幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）に通う 5 歳児（年長児）の保護者

（各園，5 歳児が含まれるクラスのうち 1 クラスに在籍する子どものみ対象[1]）

② 上記①の子どもが在籍するクラスを担任する保育者（各園 1 人，2024 年度調査のみ対象）

③ 上記①の子どもが通う園の園長等（園全体の運営業務を担当する方）（各園 1 人, 2024 年度調査のみ対象）

④ 上記①の子どもが就学した小学校等で在籍するクラスを担任する教師（2025 年度調査から対象）

⑤ 上記①の子どもが就学した小学校等の校長等（学校全体の運営業務を担当する方）（各校 1 人，2025 年度調査から対象）

調査期間

2024（令和 6）年度から，まずは 2028（令和 10）年度まで（5 年間）

対象の選定（サンプリング）

本調査の対象の選定（以下，サンプリング）は，複数の層と抽出段階を組み合わせた複合的なサンプリング計画に基づき選定した。まず，基礎自治体（市区町村）単位でサンプリングを実施し，次に，その自治体内にある園について，施設類型や公私の別を考慮してサンプリングを実施し調査協力を依頼した。サンプリングと依頼は 2023 年から開始し，2023 年度に実施した予備調査では 37 自治体 386 園からの協力が得られた。2024 年度（縦断調査 1 年目）はそれらの自治体・園に加え，さらに 38 自治体，666 園からの協力が得られた（2023 年度からの協力自治体域内の園への再依頼・追加依頼にて協力が得られた園も含む）。協力自治体数は 75 自治体，協力園数は 1,052 園となった。

以下に，自治体および園の，サンプリングの手順を示す。

＜自治体サンプリング手順＞

自治体サンプリングの手順の模式図を Figure2.1 に示す。自治体サンプリングにおいては，全国を 8 地域ブロック（北海道，東北，関東，中部，近畿，中国，四国，九州）に分類してサンプリングを行うと同時に，保育士独自配置基準あるいは保育士の追加配置に対する助成制度を設けている自治体についても別にブロック（独自配置基準ブロック）を設けてサンプリングを行った。これは，独自の保育士配置基準を設けている自治体のサンプルを確保し，データの多様性を担保する目的で実施したものである。

最初に，サンプリングの準備として，自治体の分類を行った。「住民基本台帳に基づく人

[1] ただし，一部の園においては，協力園の希望により複数のクラスを対象とした。

口，人口動態及び世帯数（令和 4 年次）」（総務省，2022）を基に，全国の基礎自治体（市町村および 23 区）を，大規模，中規模，小規模自治体のいずれかに分類した。人口 3 万人未満は小規模自治体，人口 3 万人以上で政令市・中核市・23 区のいずれでもない自治体は中規模自治体，政令市・中核市・23 区は大規模自治体とした。次に，3 歳未満児，3 歳以上児それぞれで少なくとも 1 つの年齢段階において独自の保育士配置基準を設けている，あるいは保育士の追加配置に対する助成がある基礎自治体（以下，独自配置基準自治体）を，「保育所の設備及び運営に関する基準の条例制定状況及び運用状況等について」（厚生労働省，2015a），「平成 30 年度『幼児教育の推進体制構築事業の成果に係る調査分析』成果報告書」（東京大学 CEDEP，2019）および各自治体のホームページなどを参照して調べ，2 つもしくは 3 つの年齢段階において独自の保育士配置基準を設けている，あるいは保育士の追加配置に対する助成がある自治体（以下，2〜3 年齢独自配置基準自治体）と，4 つ以上の年齢段階において独自の保育士配置基準を設けている，あるいは保育士の追加配置に対する助成がある自治体（以下，4 年齢以上独自配置基準自治体）に分類した。

次に，独自配置基準・地域ブロックレベルのサンプルサイズの割り当てを決めた。まず，独自配置基準ブロックにサンプルサイズを割り当て，全体（15,000 人）から独自配置基準ブロックに割り当てられたサンプルサイズを引くことで，8 地域ブロックに割り当てるサンプルサイズを決定することとした。「住民基本台帳に基づく人口，人口動態及び世帯数（令和 4 年次）」（総務省，2022）を参照し，各自治体の 0〜4 歳児人口を調べた。2〜3 年齢独自配置基準自治体における 0〜4 歳児人口は，全国の 0〜4 歳児人口の約 9%にあたることから，15,000 人の 9%にあたる 1,350 人のサンプルサイズを割り当てた。同様に，4 年齢以上独自配置基準自治体の 0〜4 歳児人口は全国の約 8%にあたることから，1,200 人のサンプルサイズを割り当てた。一方で，地域ブロックごとのサンプルサイズの割り当ては，人口比による割り当てではなく，15,000 人から上記独自配置基準自治体ブロックに割り当てた 2,550 人を差し引いた 12,450 人を 8 地域ブロック間で均等割りし，1 ブロック 1,556 人ないし 1,557 人を割り当てることとした。人口の多い関東ブロックと近畿ブロックから 1,557 人とし，他 6 ブロックから 1,556 人とした。地域ブロック間の割り当てを人口比による割り当てではなく均等割りにした目的として，以下の 3 点を挙げる。一つに，各地域ブロックの特徴を明らかにしそれらの比較検討を可能にするためである。二つに，人口の少ない地域ブロックでも十分なサンプルサイズを確保することで当該地域ブロックの分析結果の信頼性を確保するためである。三つに，人口の多い特定の地域ブロックの傾向に強く引きずられることを避け，それ以外の地域ブロックの状況も反映した結果を示すことを可能にするためである。

以上より，各独自配置基準・地域ブロックレベルのサンプルサイズが決定されたため，各ブロック内部で，大規模，中規模，小規模の自治体規模ごとのサンプルサイズを決定した。すなわち，独自配置基準・地域ブロックごとに，大規模，中規模，小規模自治体の 0〜4 歳児人口比率を算出し，その割合にしたがって，ブロック内でサンプルサイズを割り当てた。

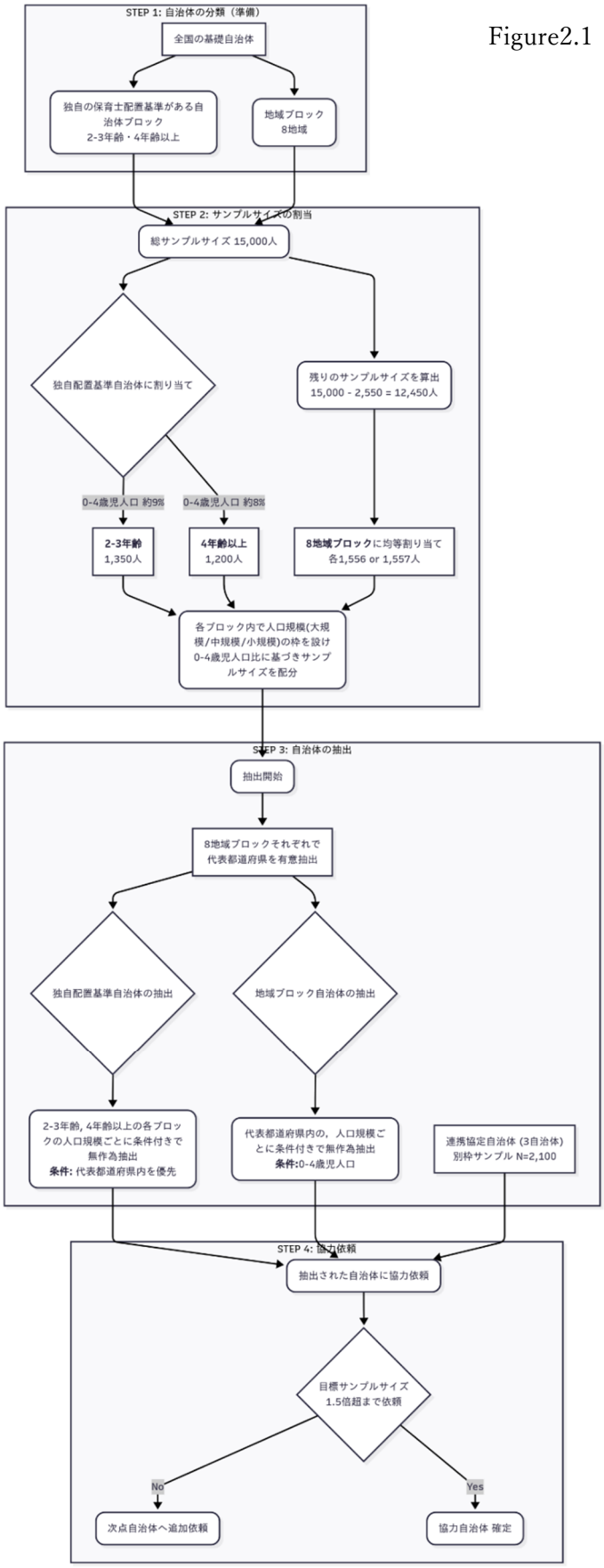


Figure2.1 自治体サンプリング手順模式図

サンプルサイズの割り当てが完了した後，基礎自治体のサンプリングを行った。まず，地域ブロック内の都道府県レベルでのサンプリング条件を一致させるため，地域ブロックごとに代表都道府県を有意抽出した。次に，2〜3 年齢独自配置基準自治体ブロックについて，地域ブロックの代表都道府県内にある自治体を優先する条件付きのランダムサンプリングを行い，大規模・中規模・小規模の自治体を抽出した。同様に，4 年齢以上独自配置基準自治体ブロックについても，地域ブロックの代表都道府県内にある自治体を優先する条件付きのランダムサンプリングを行い，大規模・中規模・小規模の自治体を抽出した。その後，各地域ブロックの基礎自治体のサンプリングを行った。各地域ブロックの代表都道府県内の大規模，中規模，小規模にそれぞれ割り当てられたサンプルサイズの 7.5 倍の 0〜4 歳児人口をもつ自治体の中から，大規模，中規模，小規模自治体をそれぞれランダムに抽出した。なお，上記 0〜4 歳児人口については，「住民基本台帳に基づく人口，人口動態及び世帯数（令和 4 年次）」（総務省，2022）を用いて算出した値を用いた。上記の条件で該当する自治体または協力可能な自治体が十分に無い（サンプルサイズの 5 倍のさらに 1.5 倍の 0〜4 歳児人口に足りない）場合は，上記のサンプルサイズ基準の 1／2 サイズの人口条件でランダムにサンプリングした。さらにその条件でも該当する自治体／協力可能な自治体が十分に無い場合は，1／3，1／4，1／5，と分母を 1 ずつ大きくした人口条件でランダムに抽出した。条件を満たす自治体が地域ブロックに 1 自治体しかない場合など，ランダムサンプリングとなっていない場合があることに留意されたい。

上記の手順で抽出された自治体に依頼を行い，協力可能な自治体のサンプルサイズ基準が，割り当てられたサンプルサイズの 1.5 倍を超えるまで協力依頼を行った。依頼した自治体が協力不可となった場合は次点で選出された自治体に依頼を行うという方針で依頼を進めた。ただし，1／6 サイズの人口条件まで依頼を行い，それでもサンプルサイズ基準を満たせない場合は，依頼を打ち止めた。

また，上記のランダムサンプリングによるサンプルに加え，東京大学 CEDEP と連携協定を締結している 3 自治体を 2024 年度からの「幼児教育に関する大規模縦断調査」追加サンプルとした。3 自治体には調査全体の想定サンプルサイズ 15,000 人とは別に 2,100 人のサンプルサイズを割り当て，園のサンプリングはランダムサンプリングによるサンプルと同様の手順で行うこととした。

＜園サンプリング手順＞

園サンプリングの手順の模式図を Figure2.2 に示す。園サンプリングにおいては，以下の観点から，協力が得られた自治体域内の園を抽出して協力依頼を行った。

まず，サンプリングの準備として，園の施設類型を，国立幼稚園／公立幼稚園／私立幼稚園／公立保育所／私立保育所／公立認定こども園／私立認定こども園／認可外保育施設の 8 類型に分類した。なお，幼稚園型認定こども園は幼稚園，保育所型認定こども園と地方裁量型認定こども園は保育所，幼保連携型認定こども園は認定こども園として分類した。自治

体独自の認証制度によって認証された保育施設は，私立保育所に分類した。公私連携施設は，私立園に分類した。

次に，サンプルサイズの割り当てを行った。「令和4年度学校基本調査」（文部科学省，2023），および，「令和３年社会福祉施設等調査」（厚生労働省，2022）を基に，日本全国の各施設類型利用者人数比率（5 歳児）を算出し，その比率に近くなるように，施設類型ごとのサンプルサイズを自治体ごとに割り当てた（単純割り当てサンプルサイズの算出）。ただし，自治体によって，施設類型ごとの人数比率に偏りがあるため，各ブロック内の大規模，中規模，小規模のサンプルサイズを合計した値が，日本の施設類型人数比率と近くなるように，自治体間で比率を調整した（調整割り当てサンプルサイズの算出）。なお，地方裁量型認定こども園，認証保育所，認可外保育施設の全体数は不明のため，全体数および比率の算出には含めていないものの，地方裁量型認定こども園および認証保育所は保育所としてサンプリング対象に含め，認可外保育施設には個別にサンプルサイズを割り当ててサンプリングを行った。

調整割り当てサンプルサイズの算出が完了した後，園のサンプリングを行った。まず，「全国学校データ」の幼稚園・保育園・認定こども園それぞれの 2024 年度版（教育ソリューション協会，2024a, 2024b, 2024c）を用いて，直近の統廃合や施設類型の変更などを自治体に確認してリストを作成した。次に，施設類型ごとに園をランダムに並べ直したサンプリング用リストを作成し，サンプリング用リストの上から累計 5 歳児園児数が目標サンプルサイズに達するまで順に依頼していくことでランダムサンプリングとした。各園の 5 歳児園児数の算出に当たっては，「全国学校データ」に収録されている園全体の人数情報から算出した推定値を用いたほか，自治体から各園の人数情報や 5 歳児に絞った人数情報の提供がある場合はそれを用いた。園児数が極端に少ない場合，園の幼児教育・保育の影響と家庭の影響とを切り分けて分析できなくなるため，各施設類型において，5 歳児園児数が 10 人以上いる園を優先してサンプリングを行った。協力依頼の際は，5 歳児が 5 名以上いる園を対象とした（四国ブロックの小規模自治体枠のみ，5 歳児が 4 名以上いる園を対象とした）。また，認可外保育施設のうち，院内保育所および従業員枠のみの（地域枠が無い）事業所内保育所は除外した。ただし，自治体内の該当園を全て合わせても割り当てたサンプルサイズを下回っている場合などは，例外的にランダムサンプリングではなく全数を対象とした。

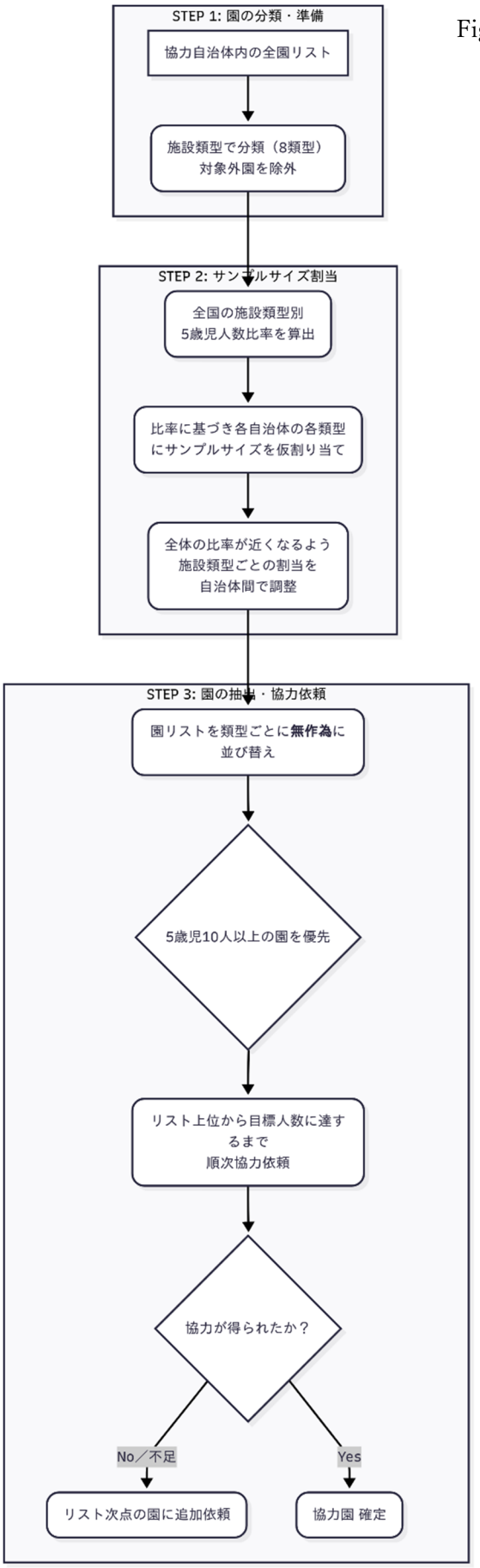


Figure2.2 園サンプリング手順模式図

協力依頼は，抽出された各園に郵送で行うことを基本とし，送付物の到着確認や回答のリマインドのため架電を行った。協力不可の園が一定数存在することを考慮し，依頼対象園の5歳児園児数の合計が調整割り当てサンプルサイズより多めになるよう依頼を行った。国立幼稚園は全数依頼を行い，認可外保育施設については調整割り当てサンプルサイズにかかわらず各ブロック 3 園を目指して依頼を行った。園は協力可否を WEB フォームから回答し，協力可の園には，対象となる保護者の人数を回答してもらった。協力不可や無回答の園があり協力園の 5 歳児園児数が目標サンプルサイズを満たさない場合には，リストで次点となっていた園に依頼を順次行った。2023 年には 386 園, 2024 年縦断調査からは新たに 666 園，合計 1,052 園の園から協力を得ることができた。

倫理的配慮

「幼児教育に関する大規模縦断調査」は，東京大学の倫理審査専門委員会で審査され，東京大学大学院教育学研究科長の承認を受けている（2025 年 9 月時点で最新の審査番号：25-065）。園への協力依頼に際しては，「公立小学校への協力依頼を進めるために本事業に協力している旨を所在自治体に伝達すること」についての同意を尋ね，同意が得られた場合にのみ，協力園である旨を所在自治体に情報共有した。また，各質問紙調査の参加者は，はじめに質問紙フォーム画面上に表示された調査の目的，収集する個人情報，データの取り扱い，回答の任意性に関する説明を読み，「上記（説明）に同意しアンケートに参加する」ボタンを押した者のみが回答に進むこととした。

2-2.　2024 調査の概要

調査対象

2024 年度調査（以下，2024 調査）の協力自治体は 75 自治体，協力園は 1,052 園（保護者調査実施時点）であった。2024 調査は，2024 年 5 月～7 月に実施した保護者を対象とした調査（以下，保護者調査）と，2024 年 12 月～2025 年 2 月に実施した園長等と担任保育者を対象とした調査（以下，園調査）に分けられる。保護者調査実施後に調査協力を取り止めた園を園調査の対象から除外したため，園調査時点での協力園は 1,031 園となった。

保護者調査の調査対象：

① 調査協力園（1,052 園）に在籍する 5 歳児（年長児）の保護者。総配付数 23,753（再発行や予備分も含む，個別 URL ののべ配付数）（内訳：国立幼稚園 5 園 162／公立幼稚園 64 園 1,251／私立幼稚園 267 園 6,962／公立認可保育所 224 園 4,728／私立認可保育所 313 園 6,187／認可外保育施設 10 園 153／公立幼保連携型認定こども園 50 園 1,227／私立幼保連携型認定こども園 119 園 3,083）。

園調査の調査対象：

② 上記①の子どもが在籍するクラスを担任する保育者（各園 1 クラス 1 名）。配付数 1,031（園に紐づけた個別 URL のため，再発行の場合ものべ配付数は変化しない）（内訳：国立幼稚園 5／公立幼稚園 64／私立幼稚園 258／公立認可保育所 224／私立認可保育所 302／認可外保育施設 10／公立幼保連携型認定こども園 50／私立幼保連携型認定こども園 118）。

③ 上記①の子どもが通う園の園長等（園全体の運営業務を担当する方）（各園 1 名）。配付数 1,031（園に紐づけた個別 URL のため，再発行の場合ものべ配付数は変化しない）（内訳：②と同じ）。

実施の手順

調査は WEB 質問紙調査で行った。園長等を対象とした質問紙調査のみ，紙版質問紙も作成し，紙版と WEB 版のどちらか一方を回答してもらった。実施の手順を，保護者調査と園調査に分けて以下に記す。

保護者調査：

質問紙回答フォームの個別 URL が印字された回答案内チラシを，5 歳児 1 クラスの人数分の部数（5 歳児クラスの人数は，園への協力依頼の際，園が協力への同意とともに回答した人数）に各園 2 部を予備として追加して送付し，園から対象者に配付してもらった。協力園や調査対象者から，不足や紛失等で再送の要望があった場合は，新しい個別 URL を再発行し送付した。なお，保護者には WEB 質問紙内で携帯電話番号を尋ね，質問紙に回答した

保護者には後日，回答の謝礼として当該携帯電話番号にショートメッセージサービス（SMS）にて，デジタルギフト（EJOICA セレクトギフト）1,000 円分を送付した。

園調査：

園長等用と 5 歳児担任保育者用に各園 1 枚ずつ，園に紐づけられた質問紙回答フォームの個別 URL が印字された回答案内チラシを準備した。それらに，園長の紙版質問紙および紙版質問紙返送用封筒を添え，封筒に入れて送付した。協力園や調査対象者から，不足や紛失等で再送の要望があった場合は，新しい個別 URL ではなく，園に紐づけられた個別 URL を再発行し送付した。

質問紙項目

①保護者調査

保護者・家庭の基礎情報および社会経済的状況，子どもの基礎情報，子どもの就園・通園状況，子どもの生活習慣，家庭での教育，子育て，子どもの発達，育児サポート，家事・育児の分担に関する項目からなる。基本的には既存の尺度や項目を活用し，既存の尺度や項目がない場合には新たに作成した。

１）保護者・家庭の基礎情報：調査の基礎情報として，回答者（保護者）の続柄，年齢，同居家族，対象児のきょうだいの人数・性別・年齢，調査時点までの家族構成の変化の有無，父母の単身赴任の有無について，「第 6 回 21 世紀出生児縦断調査【平成 22 年出生児】」（厚生労働省，2015b）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。きょうだいの健康・発達の状況について，「北海道子どもの生活実態調査」第 1 回調査の小学 2 年生保護者用質問紙（北海道保健福祉部・北海道大学大学院教育学研究院「子どもの生活実態調査」研究班，2017）で使われた項目を基に，適宜改変して項目を作成した。また，家庭内で使用されている言語について新たに項目を作成した。

２）保護者・家庭の社会経済的状況：社会経済的地位（Socioeconomic Status: SES）に関する項目として，保護者の最終学歴，就労状況，世帯年収について，「第 6 回 21 世紀出生児縦断調査【平成 22 年出生児】」（厚生労働省，2015b）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成したほか，行政などから受けている支援やサービスについて，「北海道子どもの生活実態調査」第 1 回調査の小学 2 年生保護者用質問紙（北海道保健福祉部・北海道大学大学院教育学研究院「子どもの生活実態調査」研究班，2017）で使われた項目を基に，適宜改変して項目を作成した。

３）子どもの基礎情報：調査の基礎情報として，対象児の性別，生年月日，身長・体重について，「第 6 回 21 世紀出生児縦断調査【平成 22 年出生児】」（厚生労働省，2015b）で使用された項目を基に，適宜改変して項目を作成した。対象児の健康・発達の状況について，「北海道子どもの生活実態調査」第 1 回調査の小学 2 年生保護者用質問紙（北海道保健福祉部・北海道大学大学院教育学研究院「子どもの生活実態調査」研究班，2017）で使われた項目を

基に，適宜改変して項目を作成したほか，齲歯の状況や長期入院の経験について，小児医療を専門とする外部委員の指導のもと，新たに項目を作成した。

４）子どもの就園・通園状況：通園開始時期，保育利用時間について，「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」（国立教育政策研究所，2023a）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。園で受けている個別的な対応について，「令和 3 年度全国学力学習状況調査」（文部科学省，2021）の保護者質問紙で使われた項目を基に，適宜改変して項目を作成した。保護者から見た園の評価について，東京大学 CEDEP・ベネッセ教育総合研究所「乳幼児の生活と育ちに関する調査」（ベネッセ教育総合研究所，2023），「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）の保育者質問紙で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。保護者と園とのコミュニケーションや保護者の園への参与について，「OECD 国際幼児教育・保育従事者調査 2018 年調査」（国立教育政策研究所，2020）の園長質問紙で使われた項目を基に，適宜改変して項目を作成した。

５）子どもの生活習慣：起床・就寝時間，昼寝時間，保護者と一緒に過ごす時間や一緒に食事をする頻度について，「第 6 回 21 世紀出生児縦断調査【平成 22 年出生児】」（厚生労働省，2015b）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。デジタル機器の利用時間について，東京大学 CEDEP・ポプラ社「幼児・児童の読書とデジタルメディア利用についての保護者調査」（佐藤，2022）および東京大学 CEDEP・ベネッセ教育総合研究所「乳幼児の生活と育ちに関する調査」（ベネッセ教育総合研究所，2023）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。

６）家庭での教育，子育て：子ども一人での読書時間および読み聞かせの頻度や開始時期について，東京大学 CEDEP・ベネッセ教育総合研究所「乳幼児の生活と育ちに関する調査」（ベネッセ教育総合研究所，2023）および「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」（国立教育政策研究所，2023a）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。習い事について，東京大学 CEDEP・ベネッセ教育総合研究所「乳幼児の生活と育ちに関する調査」（ベネッセ教育総合研究所，2023）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。家族での外出および，家庭での教育について，「第 6 回 21 世紀出生児縦断調査【平成 22 年出生児】」（厚生労働省，2015b）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。教育アスピレーション（保護者が自身の子どもに対して，将来的に到達してほしいと望む教育的な到達目標，最終学歴など）について，「令和 3 年度全国学力学習状況調査」（文部科学省，2021）の保護者質問紙項目で使用された項目を基に，適宜改変して項目を作成した。学びに関する保護者のかかわりについて，担任保育者項目（後述。幼稚園教育要領（文部科学省，2017）を参照して作成）を基に適宜改変して項目を作成した。保護者の就学準備的かかわりについて，担任保育者項目（後述。西田他（2023）を参照して作成）を基に適宜改変して項目を作成した。保護者の養育態度について，養育スタイル尺度（Okubo et al., 2022）を用いた。

７）子どもの発達：非認知能力の発達について，東京大学 CEDEP が開発した「CEDEP 式幼児用自己と社会性に関わる非認知能力尺度」（浜名他，2025）を用いた。子どもの問題と社会性について，Strength and Difficulties Questionnaire（SDQ；子どもの強さと困難さアンケート）（Goodman, 1997）を用いた。SDQ は Youthinmind Limited 社による WEB 画面チェックを受け，オンライン使用ライセンスを得て使用した。認知的スキルの発達や生活スキルに関する項目として，「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」（国立教育政策研究所，2023a）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。運動スキルに関する項目として，「東アジアこども発達スケール」（青柳他，2013）の，身体能力に関する 10 項目を用いた。

８）育児サポート，家事・育児の分担：子育てのサポートの有無や配偶者間関係について，東京大学 CEDEP・ベネッセ教育総合研究所「乳幼児の生活と育ちに関する調査」（ベネッセ教育総合研究所，2023）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。配偶者の家事・育児について，「第 6 回 21 世紀出生児縦断調査【平成 22 年出生児】」（厚生労働省，2015b）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。配偶者との関係について，東京大学 CEDEP・ベネッセ教育総合研究所「乳幼児の生活と育ちに関する調査」（ベネッセ教育総合研究所，2023）で使用された項目（菅原・詫摩（1997）の夫婦間親密性尺度を基に作成された項目）を適宜改変して項目を作成した。

②担任保育者調査

回答者の基礎情報，経験年数，保有資格・免許，研修の受講状況，計画の立て方，振り返り，情報共有，教育／保育標準時間における活動内容，環境構成，読書環境，保育者のかかわり，ICT（Information and Communication Technology: 情報通信技術）活動，就学準備的な指導，幼児教育・保育における人権・人格の尊重，安全管理，園長のリーダーシップ，職場の協働的風土の認知，労働環境，精神的健康について尋ねる項目からなる。保護者対象質問紙と同様に，既存の尺度や項目を活用し，既存の尺度や項目がない場合には新たに作成した。

１）担任保育者の基礎情報：調査の基礎情報として，回答者の性別，年齢，役職について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。

２）担任保育者の経験年数，保有資格・免許，研修等：回答者の経験年数・資格・免許の取得状況・最終学歴について，「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」（国立教育政策研究所，2023a）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。研修の受講状況に関する項目として，保育士等キャリアップ研修については保育士等キャリアアップ研修ガイドライン（厚生労働省, 2019）を参照し，また，それ以外の研修については，「OECD 国際幼児教育・保育従事者調査 2018 年調査」（国立教育政策研究所，2020）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。

３）指導計画の立て方と実践の振り返り：指導計画の立て方，振り返り，職員間および保護

者への情報共有について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。

４）教育／保育標準時間の活動内容：教育／保育標準時間における遊びや活動について，「教育の効果に関する調査研究」（国立教育政策研究所，2023b）で使用された項目を基に，適宜改変して項目を作成した。

５）クラスの教育・保育の環境構成，読書環境：クラスの教育・保育の環境構成について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP, 2015）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成したほか，幼稚園教育要領（文部科学省, 2017）の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」での記載を基に項目を作成した。読書環境について，蔵書数や本のジャンルや読み聞かせ頻度の項目を新たに作成した。

６）保育者のかかわり：クラスにおける保育者の子どもへのかかわりについて，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP, 2015）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成したほか，幼稚園教育要領（文部科学省, 2017）の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」での記載を基に項目を作成した。午前中眠そうにしている子どもへの対応について，発達科学を専門とする外部委員の指導を受けながら，新たに項目を作成した。

７）ICT 活動：クラスでの ICT を使った子どもの活動の状況について，「新・保育環境評価スケール 1（ECERS-3）」（ハームス他，2016）の ICT に関する観察項目を基に，適宜改変して項目を作成した。

８）就学準備的な指導：クラスにおける就学準備的な指導の状況について，西田他（2023）で抽出された就学準備的な取り組みを基に，項目を作成した。

９）幼児教育・保育における人権・人格の尊重：クラスの教育・保育実践における人権・人格の尊重について，厚生労働省令和２年度子ども・子育て支援推進調査研究事業報告書「不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引き」（株式会社キャンサースキャン, 2021）での記載を基に項目を作成した。

１０）幼児教育・保育における安全管理：保育における事故を防ぐための体制の状況について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP, 2015）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。

１１）園長のリーダーシップ，職場の協働的風土の認知：園長のリーダーシップについて，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）で使用した項目を基に適宜改変して項目を作成した。職場の協働的風土に関する保育者の認知について，「協働的風土の認知尺度」（田村，2008；田村他，2012）を基に，尺度開発者の許可を得て文言を一部改変して項目を作成した。

１２）担任保育者の労働環境：労働環境に関する項目として，休暇の取りやすさ，休憩時間，ノンコンタクトタイム（園児との接触がない勤務時間），労働時間，職務内容，給与が職務内容に見合っているかについて，幼児教育・保育を専門とする外部委員の指導を受けながら，

新たに項目を作成した。

１３）担任保育者の精神的健康：保育者の精神的健康について，稲垣他（2013）の WHO-5 精神健康状態表簡易版（S-WHO-5-J）を用いた。

③園長等調査

回答者の基礎情報，園の基礎情報（施設類型，運営主体），回答者の教育・保育の経験，リーダーシップ，保育者の配置（担任を持つ／持たない保育者人数，新任者数，休職者数，離職者数，経験年数ごとおよび資格ごとの保育者人数），クラス編制，クラスごとの子どもや保育者の人数，インクルージョンや多様性に関する取り組み，3・4・5 歳児の教育・保育で重視していること，幼保小接続の意識・取り組み，園で提供している習い事，英語教育，園の運営管理のための ICT 利用状況，園の環境・設備，園内外での研修について尋ねる項目を作成した。

１）園長等および園の基礎情報：調査の基礎情報として，回答者の性別，年齢，役職，勤続年数，役職年数について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）で使用した項目を基に適宜改変して項目を作成した。園の基礎情報として，在籍児数については「OECD 国際幼児教育・保育従事者調査 2018 年調査」（国立教育政策研究所，2020）で使用した項目を基に適宜改変して項目を作成し，施設類型や運営主体については「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）で使用した項目を基に適宜改変して項目を作成した。

２）教育・保育の経験，リーダーシップ，専門性およびその向上のための活動：回答者の教育・保育の経験，保有資格・免許，最終学歴，リーダーシップ，研修への参加について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）で使用した項目を基に適宜改変して項目を作成した。

３）保育者の配置：担任を持つ／持たない保育者人数，新任者数，休職者数，離職者数について，「OECD 国際幼児教育・保育従事者調査 2018 年調査」（国立教育政策研究所，2020）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。また，職員数の余裕，身体やメンタルの不調による休職・離職者数，代替職員の配置状況，経験年数ごとの保育者数，保有資格ごとの保育者数について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成したほか，幼児教育・保育を専門とする外部委員の指導のもと，新たに項目を作成した。

４）クラス編制・クラスサイズ：クラス編制，クラスの実員数，クラス数，1 クラスあたりの担当保育者数，加配保育者数について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。

５）インクルージョンや多様性の尊重に関する取り組み：特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ状況や多様性に関する園の取り組み状況について，「OECD 国際幼児教育・保育従

事者調査 2018 年調査」（国立教育政策研究所，2020）で使用された項目を適宜改変して項目を作成したほか，特別支援を専門とする外部委員の指導のもと，新たに項目を作成した。

６）3・4・5 歳児の教育・保育で重視していること：特に時間を設けて行っている活動について，「教育の効果に関する調査研究」（国立教育政策研究所，2023b）で使用された項目を基に，適宜改変して項目を作成した。また，3・4・5 歳児の教育・保育で重視していることについて，幼稚園教育要領（文部科学省，2017）の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」での記載を基に項目を作成した。

７）幼保小接続の意識・取り組み：幼保小接続の意識について，東京大学 CEDEP「保幼小接続（幼保小接続・幼小接続）についての意識および取り組みに関する WEB アンケート調査」（2021）で使用された項目を基に，適宜改変して項目を作成したほか，接続する小学校数について新たに項目を作成した。園と他機関との連携の状況について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）および「OECD 国際幼児教育・保育従事者調査 2018 年調査」（国立教育政策研究所，2020）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。カリキュラム・年間計画における連続性への意識について，文部科学省（2022）の「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」での記載を基に，新たに項目を作成した。小学校職員との情報共有や交流，接続に関する会議や研修，保護者への情報発信，子ども同士の交流について，東京大学 CEDEP「保幼小接続（幼保小接続・幼小接続）についての意識および取り組みに関する WEB アンケート調査」（2021）で使用された項目を基に，適宜改変して項目を作成した。

８）園で提供している習い事，英語教育：園で提供している課外活動や英語教育の状況に関する項目を新たに作成した。

９）園の運営管理のための ICT 利用状況：園の ICT 機器の利用状況・整備状況に関する項目を新たに作成した。

１０）園の環境・設備：園の設備環境の状況に関する項目として，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）で使用した項目を基に適宜改変して項目を作成した。

１１）園内外での研修：園の園内研修の内容および園外研修の受講支援の状況について，「保育の質の保障・向上への取り組みに関する全国大規模調査」（東京大学 CEDEP，2015）および「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」（国立教育政策研究所，2023a）および「OECD 国際幼児教育・保育従事者調査 2018 年調査」（国立教育政策研究所，2020）で使用された項目を基に適宜改変して項目を作成した。

担任保育者・園長等（②③）の質問紙項目については，2023 年 6 月に 5 園（内訳：公立幼稚園 1 園，私立幼稚園 1 園，公立保育所 1 園，私立認定こども園 2 園）の園長・保育者に確認してもらい，違和感や不足のある設問，選択肢および文言を修正し作成した。

また，全て（①②③）の質問紙項目について，2023 年に予備調査を 2 回実施し，回答の分布等を確認した上で，必要な修正を行い作成した。

回収数

2024 調査の回答回収数（以下，回答データ数）は以下の通りであった。

①保護者の回答データ数：

7,640 の回答が得られた。そのうち，重複回答や，双子の両方に回答した場合の下の子についての回答を除外した 7,632 を回答データ数とする。（内訳：国立幼稚園 116，公立幼稚園 422，私立幼稚園 2,372，公立認可保育所 1,498，私立認可保育所 1,732，認可外保育施設 34，公立幼保連携型認定こども園 454，私立幼保連携型認定こども園 1,004）

②担任保育者の回答データ数：

完全回答として，828 の回答が得られた。また，途中まで回答した対象者に同意を得て，途中回答データ 3 を加えたため，回答データ数は 831 とする。重複回答等は無かった。（内訳：国立幼稚園 5／公立幼稚園 61／私立幼稚園 204／公立認可保育所 205／私立認可保育所 206／認可外保育施設 6／公立幼保連携型認定こども園 47／私立幼保連携型認定こども園 97）

③園長等の回答データ数：

WEB 版で 660，紙版で 234，計 894 の回答が得られた。そのうち，重複回答（WEB 版と紙版との重複回答，初回発送の紙版と再送した紙版との重複回答）を除外した 888 を回答データ数とする。（内訳：国立幼稚園 5／公立幼稚園 64／私立幼稚園 217／公立認可保育所 215／私立認可保育所 230／認可外保育施設 5／公立幼保連携型認定こども園 50／私立幼保連携型認定こども園 102）

上記の回答データ数について，母集団（日本全体）の数（概算）と照らしつつ，以下にさらに説明を加える。

日本全体の数（概算）

回答データ数の説明に先立ち，まず，日本全体の数の概算として，以下を Table2.1 から Table2.3 に示す。

Table2.1 には，全国の施設類型ごとの幼児教育施設数（園数）および 5 歳児利用者人数を示す。Table2.2 には，地域ごとの 5 歳児人口推定値，園数，公立／私立の比率，幼稚園／保育所／幼保連携型認定こども園の比率を示す。Table2.3 には，自治体の人口規模ごとの 5 歳児人口推定値，園数，公立／私立の比率，幼稚園／保育所／幼保連携型認定こども園の比率を示す。施設類型ごとの全体数の算出には，以下の資料を用いた。すなわち，幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む）・幼保連携型認定こども園については令和6年度学校基本調査（文部科学省，2024），保育所型認定こども園・保育所については令和 5 年社会福祉施設等調査（厚生労働省，2024）の，園数および5歳児利用者数を用いた。なお，幼稚園型認定こども園は幼稚園，保育所型認定こども園は保育所として集計に含め，幼保連携型認定こども園のみ認定こども園として集計した。地方裁量型認定こども園，認証保育所，認可外保育施設の全体数は不明のため含めていないことに注意されたい。また，5 歳児人口は，「住民基本台

帳に基づく人口，人口動態及び世帯数（令和 6 年次）」（総務省，2024）の 5-9 歳人口を 5 で割って推定値を算出した。

Table 2.1 について，全国の施設類型ごとの園数は，私立認可保育所が 17,096 園と突出して多く，2 番目に多い公立認可保育所（6,630 園）とは大きな差がある。ただし，5 歳児利用者数で見ると，私立幼稚園（245,239 人）が公立認可保育所より利用者数が多く，私立認可保育所の利用者数（252,144 人）との差も比較的小さい。

Table 2.1 全国の施設類型ごとの園数，5 歳児利用者人数（母集団として）

施設類型	園数（構成比率）		5 歳児利用者数（構成比率）	
国立幼稚園	47	(0.1%)	1,576	(0.2%)
公立幼稚園	2,534	(6.4%)	37,241	(4.3%)
私立幼稚園	5,949	(15.0%)	245,239	(28.3%)
公立認可保育所	6,630	(16.8%)	118,946	(13.7%)
私立認可保育所	17,096	(43.2%)	252,144	(29.1%)
公立認定こども園	1,014	(2.6%)	27,197	(3.1%)
私立認定こども園	6,306	(15.9%)	182,816	(21.1%)
認可外保育施設	データ無し（-）		データ無し（-）	

Table 2.2 について，全国の地域ごとの 5 歳児人口推定値は，関東が 337,704 人と突出して多く，近畿，中部，九州と続く。園数は，関東，中部，近畿，九州の順で多い。いずれも最も少ないのは四国であり，5 歳児人口および園数は地域差が見られることが分かる。また，公立園／私立園の比率や，幼稚園／保育所／認定こども園の比率にも地域差が見られる。公立園の比率が高いのは四国（49.2%），中部（40.4%）で，一方の私立園の比率が高いのは九州（86.2%），関東（82.2%）である。幼稚園の比率が最も高いのは四国（24.8%）で，最も低いのは中部（18.4%）である。保育所の比率が最も高いのは関東（70.3%）で，最も低いのは近畿（45.2%）である。認定こども園の比率が最も高いのは近畿（30.1%）で，最も低いのは関東（7.9%）である。幼稚園の比率は 18.4%～24.8%と，地域差は比較的小さいが，保育所と認定こども園の比率には地域差が比較的大きい（保育所の比率のレンジ：45.2%～70.3%。認定こども園の比率のレンジ：7.9%～30.1%）。

Table 2.3 について，全国の自治体人口規模ごとの 5 歳児人口推定値は，大規模自治体（473,150 人）が最も多いものの，中規模自治体（440,474 人）の約 1.07 倍と，それほど大きな差はない。一方，小規模自治体の 5 歳児人口推定値 75,086 人に比べると 6 倍超となっており，大規模自治体・中規模自治体と，小規模自治体との差が大きい。園数についても同様である。また，施設類型の比率についても，自治体の人口規模による差が見られる。公立園の比率が最も高いのは小規模自治体であり（45.7%），半数近くの園が公立園である。一方，大規模自治体は私立園の比率が 81.9%と高い。また，幼稚園および保育所の比率が最も高い

のは大規模自治体（幼稚園 22.1%，保育所 61.2%）であり，認定こども園の比率が最も高いのは小規模自治体（22.4%）である。

Table 2.2 全国の地域ごとの 5 歳児人口（推定），園数，公立園／私立園の園数比率，幼稚園／保育所／認定こども園の園数比率（母集団として）

地域	5 歳児人口推定値（構成比率）		園数（構成比率）		施設種別比率			設置主体比率	
					幼稚園	保育所	認定こども園	公立園	私立園
北海道	35,422	(3.6%)	1,442	(3.6%)	22.3%	54.8%	22.9%	19.1%	80.8%
東北	61,165	(6.2%)	3,008	(7.6%)	20.4%	52.7%	26.9%	23.3%	76.5%
関東	337,704	(34.2%)	13,069	(33.0%)	21.8%	**70.3%**	7.9%	17.7%	82.2%
中部	167,794	(17.0%)	6,337	(16.0%)	18.4%	58.5%	23.1%	40.4%	59.4%
近畿	174,219	(17.6%)	6,194	(15.7%)	24.7%	45.2%	**30.1%**	30.8%	69.0%
中国	57,772	(5.8%)	2,592	(6.5%)	23.5%	59.2%	17.3%	38.2%	61.6%
四国	27,764	(2.8%)	1,324	(3.3%)	**24.8%**	57.5%	17.7%	**49.2%**	50.5%
九州	126,870	(12.8%)	5,610	(14.2%)	19.9%	59.9%	20.2%	13.7%	**86.2%**

*施設種別比率，設置主体比率のそれぞれにおいて，最も比率の大きな値を太字で示す。

Table 2.3 全国の自治体人口規模ごとの 5 歳児人口（推定），園数，公立園／私立園の園数比率，幼稚園／保育所／認定こども園の園数比率（母集団として）

人口規模	5 歳児人口推定値（構成比率）		園数（構成比率）		施設種別比率			設置主体比率	
					幼稚園	保育所	認定こども園	公立園	私立園
大規模	473,150	(47.9%)	18,148	(45.9%)	**22.1%**	**61.2%**	16.7%	17.9%	**81.9%**
中規模	440,474	(44.6%)	17,194	(43.4%)	21.8%	58.7%	19.4%	29.1%	70.9%
小規模	75,086	(7.6%)	4,234	(10.7%)	17.9%	59.7%	**22.4%**	**45.7%**	54.3%

*施設種別比率，設置主体比率のそれぞれにおいて，最も比率の大きな値を太字で示す。

2024 調査の回答データ数

次に，2024調査の回答データ数について，施設類型ごとの回答データ数（重複回答等を除外した数）および母集団に対する割合(Table2.4), 地域ごとの回答数および母集団に対する割合（Table2.5），自治体の人口規模ごとの回答数および母集団に対する割合（Table 2.6）を示す。なお，担任保育者および園長等の母集団は園数で算出していることに注意されたい。

Table 2.4 について，まず，保護者の施設類型ごとの回答データ数は，私立幼稚園が最も多く（2,372），次いで私立認可保育所が多い。一方で，母集団に対する割合で見ると，国立幼稚園が最も高く（7.4%），次いで公立認定こども園，公立認可保育所と，国公立園が比較的高い傾向がみられる。私立園は公立園に比べ協力を得ることが難しい傾向がうかがえる。一方で, 認可外保育施設を除く私立園は, 母集団が大きいため, 母集団に対する割合が低くとも，回答数ではいずれも 1,000 を超える回答が得られている。

次に，担任保育者および園長等の施設類型ごとの回答データ数は，私立幼稚園，公立認可保育所，私立認可保育所が多く，いずれも 200（園分）を超えている。母集団に対する割合で見ると，国立幼稚園が最も高く（10.6%），次いで公立認定こども園が高い（担任保育者 4.6%，園長等4.9%）点が保護者と共通するが，私立幼稚園も高い（担任保育者 3.4%，園長等 3.6%）点が保護者とは異なる。

このように，施設類型ごとの母集団に対する割合には差がありつつも，多様な施設類型からの回答データが集まったといえる。

Table 2.4 施設類型ごとの回答数，母集団に対する割合

	保護者			担任保育者			園長等		
	回答数（構成比率）		母集団に対する割合	回答数（構成比率）		母集団に対する割合	回答数（構成比率）		母集団に対する割合
国立幼稚園	116	(1.5%)	7.4%	5	(0.6%)	10.6%	5	(0.6%)	10.6%
公立幼稚園	422	(5.5%)	1.1%	61	(7.3%)	2.4%	64	(7.2%)	2.5%
私立幼稚園	2,372	(31.1%)	1.0%	204	(24.5%)	3.4%	217	(24.4%)	3.6%
公立認可保育所	1,498	(19.6%)	1.3%	205	(24.7%)	3.1%	215	(24.2%)	3.2%
私立認可保育所	1,732	(22.7%)	0.7%	206	(24.8%)	1.2%	230	(25.9%)	1.3%
公立認定こども園	454	(5.9%)	1.7%	47	(5.7%)	4.6%	50	(5.6%)	4.9%
私立認定こども園	1,004	(13.2%)	0.5%	97	(11.7%)	1.5%	102	(11.5%)	1.6%
認可外保育施設	34	(0.4%)	-	6	(0.7%)	-	5	(0.6%)	-
計	7,632		0.9%*	831		2.1%*	888		2.2%*

*認可外保育施設の全体数データを含まない値であることに注意されたい。

Table 2.5 について，8 つの地域間のサンプルサイズの割り当てにおいては，＜自治体サンプリング手順＞で述べた通り，人口比率による割り当てではなく，均等割り当てを行った。そのため，比較的人口比率の小さい北海道，四国と，比較的人口比率の大きい関東，中部，近畿，九州とで，母集団に対する割合に差が見られる。すなわち，2024調査のデータの単純集計が日本全体の平均値とは異なる可能性に注意されたい。いずれの地域ブロックにおいても，保護者の回答データ数が500を超えており，また，担任保育者および園長等の回答データ数が70を超えており，各地域の特徴を比較分析しうるデータ数が集まったといえる。

Table 2.6 について，人口規模ごとのサンプルサイズの割り当ては，＜自治体サンプリング手順＞で述べた通り，5 歳児人口（推定値）の比率によって割り当てを行った。そのため，保護者の回答データ数に関して，人口規模ごとの母集団に対する割合の差は比較的小さかった。また，担任保育者および園長等の回答データ数に関しては，自治体規模が小さくなるにつれて母集団に対する割合は低下したものの，大きな差は認められなかった。いずれの自治

体規模においても，保護者の回答データ数は 500 以上，担任保育者および園長等の回答データ数は 70 以上と，人口規模による特徴を比較分析しうる回答データが集まったといえる。

Table 2.5 地域ごとの回答数，母集団に対する割合（独自の保育士配置基準を設けている 9 自治体および機縁法で協力依頼をした都心 3 自治体もそれぞれの地域に統合）

地域	保護者			担任保育者			園長等		
	回答数	（構成比率）	母集団に対する割合	回答数	（構成比率）	母集団に対する割合	回答数	（構成比率）	母集団に対する割合
北海道	806	(10.6%)	2.3%	103	(12.4%)	7.1%	108	(12.2%)	7.5%
東北	745	(9.8%)	1.2%	89	(10.7%)	3.0%	93	(10.5%)	3.1%
関東	2,179	(28.6%)	0.6%	226	(27.2%)	1.7%	247	(27.8%)	1.9%
中部	776	(10.2%)	0.5%	71	(8.5%)	1.1%	77	(8.7%)	1.2%
近畿	1,140	(14.9%)	0.7%	106	(12.8%)	1.7%	121	(13.6%)	2.0%
中国	713	(9.3%)	1.2%	79	(9.5%)	3.0%	80	(9.5%)	3.1%
四国	591	(7.7%)	2.1%	81	(9.7%)	6.1%	85	(9.6%)	6.4%
九州	682	(8.9%)	0.5%	76	(9.1%)	1.4%	77	(8.7%)	1.4%
計	7,632		0.9%*	831		2.1%*	888		2.2%*

*認可外保育施設の全体数データを含まない値であることに注意されたい。

Table 2.6 自治体の人口規模ごとの回答数，母集団に対する割合

人口規模	保護者			担任保育者			園長等		
	回答数	（構成比率）	母集団に対する割合	回答数	（構成比率）	母集団に対する割合	回答数	（構成比率）	母集団に対する割合
大規模	4,013	(52.6%)	0.8%	425	(51.1%)	2.3%	453	(51.0%)	2.5%
中規模	3,031	(39.7%)	0.7%	328	(39.5%)	1.9%	354	(39.9%)	2.1%
小規模	588	(7.7%)	0.8%	78	(9.4%)	1.8%	81	(9.1%)	1.9%
計	7,632		0.9%*	831		2.1%*	888		2.2%*

*認可外保育施設の全体数データを含まない値であることに注意されたい。

（西田季里・眞田英弥）

3.　保護者調査　集計結果

本章では，保護者を対象とした調査について，各設問の集計結果を図表として示すとともに，セクションごとに主だった結果について説明する。

3-1. 結果と考察

1）保護者・家庭の基礎情報

Table 3.1 から Table 3.10 は，保護者・家庭の基礎情報に関する集計結果である。回答者の続柄（Table3.1），同居家族（Table3.2），きょうだいの人数（Table3.3），保護者の離婚・死別・再婚（Table3.4），保護者の単身赴任状況（Table3.5），家庭での使用言語（Table3.6），きょうだいの健康・発達の状況（Table3.7），母親の年齢（Table3.8），父親の年齢（Table3.9），父母以外の養育者の年齢（Table3.10）について，各集計結果を以下に示した。なお，きょうだいの人数，性別，月齢，健康・発達の状況の設問は，同居家族の設問できょうだいがいると回答した者のみに表示された。母親・父親の年齢はそれぞれ，回答者の続柄として選択されていた場合，同居家族で選択されていた場合，単身赴任者として選択されていた場合に表示された。父母以外の養育者の年齢は，回答者の続柄が父母以外（「お母さん」でも「お父さん」でもない）の場合のみ回答を求めた。

回答者の続柄は「お母さん」が 9 割を占めた。保護者調査は，家庭で主に育児に関わっている方に回答を依頼していることから，この結果は依然として母親が育児の中心的役割を担っている現状を反映していると考えられる。一方で，本調査結果は母親の意識や母親による評価に偏る可能性がある点に留意する必要がある。同居家族として，「お母さん」，「お父さん」と同居していると回答した割合はいずれも 9 割を超えた。多胎児を含むきょうだいの人数は「1 人」の回答が最も多く，半数を占めた。また，父母の年齢は 30 代が最も多く，母親で 58.8%，父親で 49.4%となった。家庭での使用言語に関する設問は，インターナショナルスクールを調査対象に含むため設定したが，日本語以外の回答は 0.6%と僅かであった。

Table3.1: 回答者の続柄

	回答数	割合
お母さん	6,868	90.0%
お父さん	743	9.7%
お母さんの母親	4	0.1%
お母さんの父親	0	0.0%
お父さんの母親	0	0.0%
お父さんの父親	2	0.0%
きょうだい	3	0.0%
その他	12	0.2%
総回答数： 7,632名		

Table3.2: 同居家族（複数選択可）

	回答数	割合
お母さん	7,451	97.6%
お父さん	7,051	92.4%
兄姉弟妹（本人と本人の多胎児きょうだいを除く人数）	5,971	78.2%
対象の子の多胎児きょうだい（本人を除く人数）	149	2.0%
お母さんの母親	342	4.5%
お母さんの父親	224	2.9%
お父さんの母親	267	3.5%
お父さんの父親	190	2.5%
お母さんのきょうだい	74	1.0%
お父さんのきょうだい	30	0.4%
その他	71	0.9%
総回答数： 7,632名		

Table3.3: 同居するきょうだいの合計人数（多胎児きょうだいを含む）／人

	回答数	割合
0	1,551	20.3%
1	4,140	54.2%
2	1,574	20.6%
3	302	4.0%
4	46	0.6%
5	16	0.2%
6	2	0.0%
7	1	0.0%
総回答数： 7,632名		

Table3.4: 対象のお子さんが生まれてから現在の間に，お子さんに次のような経験はありましたか。（複数選択可）

	回答数	割合
生まれた時のお父さんと離別・死別した	403	5.3%
再婚などで生まれた時のお父さんと変わった	48	0.6%
生まれた時のお母さんと離別・死別した	30	0.4%
再婚などで生まれた時のお母さんと変わった	6	0.1%
いずれもあてはまらない	7,177	94.0%
総回答数： 7,632名		

Table3.5: 現在，以下の方は単身赴任中ですか。

	単身赴任中	単身赴任中でない
父親（または父親にかわる方）	248 (3.2%)	7,384 (96.8%)
母親（または母親にかわる方）	8 (0.1%)	7,624 (99.9%)
総回答数： 7,632名		

Table3.6: 現在，ご家庭内で主に使われている言語は日本語ですか。

	回答数	割合
日本語	7,586	99.4%
日本語以外	46	0.6%
総回答数： 7,632名		

Table3.7: 対象のお子さんのきょうだいの健康・発達の状況（複数選択可）

	回答数	割合
障がいがある（難病・発達障害は除く）子がいる	69	1.1%
難病の指定を受けている子がいる	49	0.8%
発達障害の診断を受けた，またはその可能性がある子がいる	448	7.4%
いずれもあてはまらない	5,543	91.2%
総回答数： 6,081名		

Table3.8: 母親の年齢

	回答数	割合
20歳未満	1	0.0%
20歳以上25歳未満	14	0.2%
25歳以上30歳未満	355	4.7%
30歳以上35歳未満	1,559	20.5%
35歳以上40歳未満	2,914	38.3%
40歳以上45歳未満	2,103	27.6%
45歳以上50歳未満	612	8.0%
50歳以上55歳未満	39	0.5%
55歳以上60歳未満	3	0.0%
60歳以上65歳未満	4	0.1%
65歳以上70歳未満	1	0.0%
70歳以上	1	0.0%
総回答数： 7,606名		

Table3.9: 父親の年齢

	回答数	割合
20歳未満	0	0.0%
20歳以上25歳未満	6	0.1%
25歳以上30歳未満	180	2.5%
30歳以上35歳未満	1,103	15.5%
35歳以上40歳未満	2,416	33.9%
40歳以上45歳未満	2,042	28.6%
45歳以上50歳未満	943	13.2%
50歳以上55歳未満	355	5.0%
55歳以上60歳未満	63	0.9%
60歳以上65歳未満	23	0.3%
65歳以上70歳未満	2	0.0%
70歳以上	4	0.1%
総回答数： 7,137名		

Table3.10: 父母以外の養育者の年齢

	回答数	割合
20歳未満	2	9.5%
20歳以上25歳未満	0	0.0%
25歳以上30歳未満	2	9.5%
30歳以上35歳未満	2	9.5%
35歳以上40歳未満	3	14.3%
40歳以上45歳未満	0	0.0%
45歳以上50歳未満	3	14.3%
50歳以上55歳未満	1	4.8%
55歳以上60歳未満	2	9.5%
60歳以上65歳未満	4	19.0%
65歳以上70歳未満	1	4.8%
70歳以上	1	4.8%
総回答数： 21名		

2）保護者・家庭の社会経済的状況

Table3.11 から Table3.21 は，保護者・家庭の社会経済的状況（Socioeconomic Status；SES）に関する集計結果である。母親・父親・父母以外の養育者の最終学歴（Table3.11～Table3.13），母親・父親・父母以外の養育者の職業形態（Table3.14 ～Table3.16），母親・父親・父母以外の養育者の労働時間（Table3.17 ～Table3.19），世帯年収（Table3.20），行政などから受けている支援・サービス（Table3.21）について，各集計結果を以下に示した。なお，母親・父親の最終学歴・職業形態・労働時間の設問はそれぞれ，回答者の続柄として選択されていた場合，同居家族で選択されていた場合，単身赴任者として選択されていた場合に表示された。一方，父母以外の養育者の最終学歴・職業形態・労働時間の設問は，回答者の続柄が「お母さん」「お父さん」以外の場合にのみ表示された。さらに，労働時間は，職業形態が「勤め（常勤）」「勤め（パート・アルバイト）」「自営業・家業」「内職」のいずれかの場合に回答を求めた。

最終学歴は，父母ともに「四年制大学」「高等学校・高等専門学校」「専門学校含む専修学校」の順で多かった。世帯年収については中央値が「700 万円～800 万円未満」に位置する一方，世帯年収のうち回答者の収入の中央値は「200 万円～300 万円未満」に位置している。世帯収入は主に父母のいずれかまたは双方の収入の合計として捉えられることから，回答者の大多数が母親である本調査の結果は，父親と母親の収入の間の乖離を反映していると考えられる。こうした乖離の背景には，回答者の大半を占める母親の職業形態の内訳として「勤め（パート・アルバイト）」が 30.4%，「家事（専業）」が 22.4%を占めることに加え，週当たり労働時間について，父親が「40 時間以上 60 時間未満」が最も多く 64.8%となった一方，母親は 40 時間に満たない回答の割合が総計で 67.5%を占めており，母親の方が父親よりも労働時間が短いことがあるとみられる。また，現在行政から受けている支援・サービスについては，「児童扶養手当の受給」が最も多く 2 割程度を占めた。児童扶養手当は，主にひとり親家庭に給付される手当であり，上で保護者の離婚・死別・再婚について尋ねた集計結果を見ると，生まれたときの母または父と死別・離別した対象児は合計 5.7%程度であることから，児童扶養手当の受給者が 2 割程度というこの結果とは，乖離が見られる。また，全国の児童のいる世帯数（令和 6 年 6 月 6 日時点で約 907 万 4 千世帯；厚生労働省，2025）と児童扶養手当受給者数（保護者数，令和 5 年時点で 789,521 人；こども家庭庁，2025）の 2 つの数値から算出した児童扶養手当受給世帯の割合は約 8.7%となり，2 割程度という本調査の結果と乖離が見られる。要因としては，多くの子どもが受給している「児童手当」と名称が似ているので，混同した回答者が一定数いた可能性が考えられる（児童手当は多くの調査対象児が受給していると考えられるため，あえて選択肢として設けなかった）。

Table3.11: 母親の最終学歴

	回答数	割合
小学校卒業	2	0.0%
中学校卒業	184	2.4%
高等学校・高等専門学校卒業	1,468	19.3%
専門学校を含む専修学校	1,447	19.0%
短期大学	985	13.0%
四年制大学	3,063	40.3%
六年制大学・大学院（修士課程）	359	4.7%
大学院（博士課程）	89	1.2%
分からない	9	0.1%
総回答数： 7,606名		

Table3.12: 父親の最終学歴

	回答数	割合
小学校卒業	2	0.0%
中学校卒業	263	3.7%
高等学校・高等専門学校卒業	1,649	23.1%
専門学校を含む専修学校	911	12.8%
短期大学	119	1.7%
四年制大学	3,245	45.5%
六年制大学・大学院（修士課程）	679	9.5%
大学院（博士課程）	252	3.5%
分からない	17	0.2%
総回答数： 7,137名		

Table3.13: 父母以外の養育者の最終学歴（回答者が父母以外の場合の設問）

	回答数	割合
小学校卒業	0	0.0%
中学校卒業	1	4.8%
高等学校・高等専門学校卒業	7	33.3%
専門学校を含む専修学校	1	4.8%
短期大学	5	23.8%
四年制大学	7	33.3%
六年制大学・大学院（修士課程）	0	0.0%
大学院（博士課程）	0	0.0%
総回答数： 21名		

Table3.14: 母親の職業形態

	回答数	割合
家事（専業）	1,705	22.4%
無職	55	0.7%
学生	17	0.2%
勤め（常勤）	2,868	37.7%
勤め（パート・アルバイト）	2,313	30.4%
自営業・家業	489	6.4%
内職	46	0.6%
分からない	0	0.0%
その他	113	1.5%
総回答数： 7,606名		

Table3.15: 父親の職業形態

	回答数	割合
家事(専業)	17	0.2%
無職	20	0.3%
学生	6	0.1%
勤め(常勤)	6,091	85.3%
勤め(パート・アルバイト)	65	0.9%
自営業・家業	876	12.3%
内職	1	0.0%
分からない	6	0.1%
その他	55	0.8%
総回答数: 7,137名		

Table3.16: 父母以外の養育者の職業形態(回答者が父母以外の場合の設問)

	回答数	割合
家事(専業)	5	23.8%
無職	1	4.8%
学生	2	9.5%
勤め(常勤)	7	33.3%
勤め(パート・アルバイト)	4	19.0%
自営業・家業	1	4.8%
内職	0	0.0%
その他	1	4.8%
総回答数: 21名		

Table3.17: 母親の1週間あたりの労働時間数

	回答数	割合
なし(一時休業中)	197	3.4%
20時間未満	1,192	20.4%
20時間以上40時間未満	2,546	43.7%
40時間以上60時間未満	1,720	29.5%
60時間以上	174	3.0%
総回答数: 5,829名		

Table3.18: 父親の1週間あたりの労働時間数

	回答数	割合
なし(一時休業中)	17	0.2%
20時間未満	67	0.9%
20時間以上40時間未満	577	8.1%
40時間以上60時間未満	4,596	64.8%
60時間以上	1,831	25.8%
総回答数： 7,088名		

Table3.19: 父母以外の養育者の1週間あたりの労働時間(回答者が父母以外の場合の設問)

	回答数	割合
なし(一時休業中)	0	0.0%
20時間未満	4	30.8%
20時間以上40時間未満	4	30.8%
40時間以上60時間未満	5	38.5%
60時間以上	0	0.0%
総回答数： 13名		

Table3.20: あなたのご家族全体の世帯収入（税込み年収）は次のどれにあてはまりますか。また，そのうち，あなたの年収は次のどれにあてはまりますか。

	世帯年収	世帯年収のうちあなたの収入
100万円未満	63 (0.8%)	2,616 (34.3%)
100万円～200万円未満	133 (1.7%)	1,120 (14.7%)
200万円～300万円未満	231 (3.0%)	827 (10.8%)
300万円～400万円未満	429 (5.6%)	748 (9.8%)
400万円～500万円未満	694 (9.1%)	573 (7.5%)
500万円～600万円未満	842 (11.0%)	405 (5.3%)
600万円～700万円未満	885 (11.6%)	238 (3.1%)
700万円～800万円未満	754 (9.9%)	174 (2.3%)
800万円～900万円未満	651 (8.5%)	100 (1.3%)
900万円～1，000万円未満	552 (7.2%)	65 (0.9%)
1，000万円～1，200万円未満	684 (9.0%)	77 (1.0%)
1，200万円～1，500万円未満	432 (5.7%)	42 (0.6%)
1，500万円以上	516 (6.8%)	45 (0.6%)
分からない／答えたくない	766 (10.0%)	602 (7.9%)
総回答数： 7,632名		

Table3.21: 現在行政などから受けている支援・サービス（複数選択可）

	回答数	割合
生活保護の受給	41	0.5%
児童扶養手当の受給	1,495	19.6%
障害児福祉手当の受給	74	1.0%
特別児童扶養手当の受給	158	2.1%
児童相談所の定期的な関与	32	0.4%
市区町村の子ども家庭相談課（子育て支援・子育て相談）との定期的な相談・面接や家庭訪問	163	2.1%
保健師の定期的な相談・面接や家庭訪問	62	0.8%
福祉型児童発達支援センターの利用	416	5.5%
医療型児童発達支援センターの利用	84	1.1%
その他	96	1.3%
いずれもあてはまらない	5,561	72.9%
総回答数： 7,632名		

3）子どもの基礎情報

Table3.22 から Table3.28 は調査対象となる子どもの基礎情報に関する集計結果である。子どもの性別（Table3.22），子どもの生年（Table3.23），調査開始時点での子どもの月齢（Table3.24），身長（Table3.25-1（記述統計量），2（度数分布）），体重（Table3.25-1（記述統計量），3（度数分布）），虫歯の状況（Table3.26），健康・発達の状況（Table3.27），長期入院の経験（Table3.28）について，各集計結果を以下に示した。なお，子どもの月齢は，生年月日の回答をもとに，調査開始時点である 2024 年 5 月 17 日を基準に算出した。身長，体重については，小数を四捨五入した整数での回答を求めた。

子どもの健康・発達の状況について，「いずれもあてはまらない」が最も多かったものの 7 割程度であり，調査対象児の健康・発達上の状況が多様であることがうかがえた。

Table3.22: 対象のお子さんの性別

	回答数	割合
男	3,953	51.8%
女	3,673	48.1%
その他	6	0.1%
総回答数： 7,632名		

Table3.23: 対象のお子さんの生年

	回答数	割合
2018年	5,854	76.7%
2019年	1,778	23.3%
総回答数： 7,632名		

Table3.24: 2024年5月17日（調査開始時点）を基準とした場合の月齢

	回答数	割合
61	298	3.9%
62	542	7.1%
63	578	7.6%
64	663	8.7%
65	571	7.5%
66	627	8.2%
67	647	8.5%
68	673	8.8%
69	688	9.0%
70	668	8.8%
71	640	8.4%
72	691	9.1%
73	346	4.5%
総回答数： 7,632名		

Table3.25-1: 現在の身長・体重

	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
身長／cm	110.4	110.0	5.5	78	190
体重／kg	18.6	18.0	2.6	8	40
総回答数： 7,632名					

Table3.25-2: 対象のお子さんの現在の身長(cm)

	回答数	割合
80cm未満	1	0.0%
80cm以上90cm未満	2	0.0%
90cm以上100cm未満	99	1.3%
100cm以上110cm未満	2,955	38.7%
110cm以上120cm未満	4,094	53.6%
120cm以上130cm未満	468	6.1%
130cm以上	13	0.2%
総回答数:7,632名		

Table3.25-3: 対象のお子さんの現在の体重(kg)

	回答数	割合
10kg未満	1	0.0%
10kg以上15kg未満	208	2.7%
15kg以上20kg未満	4,966	65.1%
20kg以上25kg未満	2,257	29.6%
25kg以上30kg未満	165	2.2%
30kg以上35kg未満	31	0.4%
35kg以上40kg以下	4	0.1%
総回答数:7,632名		

Table3.26: 対象のお子さんの現在の虫歯の状況をお知らせください。

	回答数	割合
わからない	180	2.4%
現在治療が必要な歯がある	265	3.5%
治療中・治療済み	1,472	19.3%
治療が必要だと診断されたことはない	5,715	74.9%
総回答数: 7,632名		

Table3.27: 対象のお子さんの健康・発達の状況（複数選択可）

	回答数	割合
定期的に通院している病気がある	1,185	15.5%
一時的に通院している病気がある	323	4.2%
入院している	1	0.0%
通院／入院していないが調子が悪い	7	0.1%
障がいがある（難病・発達障害は除く）	55	0.7%
難病の指定を受けている	36	0.5%
発達障害の診断を受けた	290	3.8%
発達障害の可能性がある	366	4.8%
いずれもあてはまらない	5,481	71.8%
その他	192	2.5%
総回答数： 7,632名		

Table3.28: 対象のお子さんはこれまでに2週間以上の長期入院の経験はありますか。

	回答数	割合
ある	306	4.0%
ない	7,326	96.0%
総回答数： 7,632名		

4）子どもの就園・通園状況

子どもの就園・通園状況・園への満足度

Table3.29 から Table3.33 は調査対象となる子どもの就園・通園状況・園への満足度に関する集計結果である。まずは，通園開始時期（Table3.29），園で過ごす時間（Table3.30），個別的な対応や配慮（Table3.31），園での人間関係（Table3.32），園に行くことを楽しみにしているか（Table3.33）について，各集計結果を以下に示した。

最初の園に通い始めた時期は 2019 年が 29.3%，2020 年が 24.9%と，合わせて過半数を超えることから，0 歳児クラスの 1 月から 1 歳児クラス 12 月までの間に通園を開始している子どもが多いことがわかる。3 歳児クラスに進級する 2022 年には，97.8%の子どもが通園を始めていた。ただし，本調査は 5 歳児時点で幼児教育施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）に通園している子どもを対象としているため，5 歳児時点で園に通っていない子ども（無園児）はデータに含まれていないことに留意が必要である。

園で過ごす時間は 5～6 時間が 18.1%と最大であるが，4～5 時間が 11.2%，10～11 時間

が 7.5%を占めるなど，ばらつきが大きい結果となった。個別的な対応や配慮については，1 割以上の子どもが何らかの対応を受けており，特に発達と行動に関する対応を受けている割合が最も高かった。子どもと担任の保育者，子どもと園の友だちとの関係については，9 割以上が「満足している」「どちらかといえば満足している」のいずれかを回答しており，園に行くことを楽しみにしているかの設問についても，9 割以上が「楽しみにしている」「どちらかといえば楽しみにしている」のいずれかを回答していた。保護者から見て，子どもが園での人間関係，さらには園生活全体を肯定的に捉えていることがうかがえる結果となった。

Table3.29: 対象のお子さんの通園開始時期（年）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
最初の園に通い始めた時期（一時預かりでの利用は除く）	105 (1.4%)	2,239 (29.3%)	1,904 (24.9%)	1,323 (17.3%)	1,888 (24.7%)	155 (2.0%)	18 (0.2%)
現在の園に通い始めた時期（一時預かりなどでの利用は除く）	31 (0.4%)	1,174 (15.4%)	1,306 (17.1%)	1,371 (18.0%)	2,873 (37.6%)	654 (8.6%)	223 (2.9%)
総回答数： 7,632名							

Table3.30: 対象のお子さんは1日のうち，どのくらいの時間を園で過ごしていますか。平日の平均時間を教えてください。

	回答数	割合
4時間未満	45	0.6%
4～5時間未満	855	11.2%
5～6時間未満	1,384	18.1%
6～7時間未満	834	10.9%
7～8時間未満	1,252	16.4%
8～9時間未満	1,367	17.9%
9～10時間未満	1,209	15.8%
10～11時間未満	569	7.5%
11～12時間未満	112	1.5%
12時間以上	5	0.1%
総回答数： 7,632名		

Table3.31: 現在通っている園で受けている個別的な対応や配慮（複数選択可）

	回答数	割合
呼吸管理・たん吸引・経管栄養などの医療的ケア	13	0.2%
上記以外の投薬や注射，アレルギー対応など	233	3.1%
発達と行動に関する対応	531	7.0%
母語が園で主に使用される言語と異なることによる対応	17	0.2%
宗教に関する対応	24	0.3%
性マイノリティに関する対応	3	0.0%
経済的な対応	12	0.2%
その他	56	0.7%
いずれもあてはまらない	6,793	89.0%
総回答数： 7,632名		

Table3.32: 対象のお子さんは，園での人間関係についてどれくらい満足していますか。

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない
対象のお子さんは，担任の保育者との関係についてどれくらい満足していますか。	5,242 (68.7%)	2,195 (28.8%)	168 (2.2%)	27 (0.4%)
対象のお子さんは，園の友だちとの関係についてどれくらい満足していますか。	4,936 (64.7%)	2,497 (32.7%)	176 (2.3%)	23 (0.3%)
総回答数： 7,632名				

Table3.33: 対象のお子さんは，園に行くことを楽しみにしていますか。

	回答数	割合
楽しみにしている	4,862	63.7%
どちらかといえば楽しみにしている	2,408	31.6%
どちらかといえば楽しみにしていない	311	4.1%
楽しみにしていない	51	0.7%
総回答数： 7,632名		

園に対する評価・園とのコミュニケーション

Table3.34 から Table3.36 は回答者から見た園に対する評価・園とのコミュニケーションの集計結果である。園に対する評価（Table3.34），園とのコミュニケーション・活動の頻度（Table3.35），参加した園の活動（Table3.36）について，各集計結果を以下に示した。

園に対する評価において，保育者の子どもへの関わり（「保育者の子どもへの言葉かけや関わり方が温かい」～「子どもの保育を十分行ってもらえている」）については，いずれも 9 割以上が「まああてはまる」「とてもあてはまる」のいずれかを回答しており，保護者が保育者の幼児教育・保育の実践を肯定的に評価していることがうかがえる。

一方で，保育者と保護者の関わりに関する設問（「保育者はあなたのことを気にかけてくれている」～「あなたは，子どもが園でどのように過ごしているかを知っている」）では，「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」「わからない」の回答が 1 割を超えている。さらに，保護者と園のコミュニケーションのうち，普段の子どもの様子や活動についての日常的な会話や個別の連絡の頻度は，週に 1～3 回が 34.3%と最も多いものの，年に 1～3 回という低頻度の回答も 1 割を占めており，ばらつきの大きい結果となった。この背景には，園の方針や職員の余裕に加え，保護者の側の時間的制約や幼児教育・保育への関心など，多様な要因が関与していると考えられる。園と家庭での情報共有や連携が制限されることは，幼児教育・保育や家庭での子育ての質に影響を及ぼす可能性もあるため，コミュニケーションの機会が十分に確保されるよう支援していく必要がある。

また，園に対する評価のうち，「子育てについて相談できる（あなたの）友達が園にいる」の項目については，「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」「わからない」の回答が 3 割を超えていた。園における子育て支援では，保育者が各家庭と連携するだけでなく，保護者同士のつながりを深められるよう支援することも重要である。そのためには，保護者会やイベント等の機会を活用するなどして，保護者同士が自然とコミュニケーションを取りやすくなるような工夫をしていくことが求められる。

Table3.34: 対象のお子さんが通う園の様子について，以下の項目はそれぞれどれくらい当てはまりますか。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	まあまあてはまる	とてもあてはまる	わからない
保育者の子どもへの言葉かけや関わり方が温かい	39 (0.5%)	140 (1.8%)	2,223 (29.1%)	5,149 (67.5%)	81 (1.1%)
保育者は子どもの気持ちを尊重している	44 (0.6%)	161 (2.1%)	2,411 (31.6%)	4,880 (63.9%)	136 (1.8%)
子どもの発達や興味に応じた環境や活動が工夫されている	55 (0.7%)	233 (3.1%)	2,515 (33.0%)	4,580 (60.0%)	249 (3.3%)
保育者は子どもが身の回りのものに興味をもつことを促している	42 (0.6%)	161 (2.1%)	2,408 (31.6%)	4,673 (61.2%)	348 (4.6%)
保育者は子どもの疑問や好奇心をくみ取り遊びに取り入れている	43 (0.6%)	186 (2.4%)	2,260 (29.6%)	4,750 (62.2%)	393 (5.1%)
保育者は子どもが遊びの中で様々なことを試せるようにしている	50 (0.7%)	210 (2.8%)	2,164 (28.4%)	4,826 (63.2%)	382 (5.0%)
子どもは園で自由に好きな遊びをしている	60 (0.8%)	310 (4.1%)	2,219 (29.1%)	4,772 (62.5%)	271 (3.6%)
子どもの保育を十分行ってもらえている	54 (0.7%)	155 (2.0%)	1,983 (26.0%)	5,285 (69.2%)	155 (2.0%)
保育者はあなたのことを気にかけてくれている	126 (1.7%)	693 (9.1%)	2,999 (39.3%)	3,474 (45.5%)	340 (4.5%)
子育てについて相談できる保育者がいる	283 (3.7%)	985 (12.9%)	2,826 (37.0%)	3,278 (43.0%)	260 (3.4%)
子育てについて相談できる（あなたの）友だちが園にいる	1,323 (17.3%)	1,439 (18.9%)	2,024 (26.5%)	2,699 (35.4%)	147 (1.9%)
あなたは，子どもが園でどのように過ごしているかを知っている	80 (1.0%)	823 (10.8%)	4,439 (58.2%)	2,182 (28.6%)	108 (1.4%)

総回答数： 7,632名

Table3.35: 現在通われている園とのコミュニケーション・活動の頻度

	ない	年に1～3回	年に4～10回	月に1～3回	週に1～3日	週に4～5日以上
普段のお子さんの様子や活動についての日常的な会話や個別の連絡	93 (1.2%)	767 (10.0%)	725 (9.5%)	1,610 (21.1%)	2,615 (34.3%)	1,822 (23.9%)
保護者会や園だよりの配布などの全体的な連絡	23 (0.3%)	144 (1.9%)	395 (5.2%)	5,435 (71.2%)	1,192 (15.6%)	443 (5.8%)

総回答数： 7,632名

Table3.36: 過去12か月の間に参加した園の活動（複数選択可）

	回答数	割合
子育てや子どもの発達に関する保護者向けのワークショップや講座	726	9.5%
園の保育補助に入るなどの保育参加	1,506	19.7%
園の清掃活動，資金集めなど園運営への参加	835	10.9%
園の運営に関する意思決定に保護者が貢献できる会合	940	12.3%
いずれもあてはまらない	4,742	62.1%
総回答数： 7,632名		

5）子どもの生活習慣

子どもの生活習慣

Table3.37 から Table3.42 および Figure3.39 は，子どもの生活習慣や日常生活に関する集計結果である。子どもの起床時間（Table3.37），子どもの就寝時間（Table3.38），平日の睡眠時間（Table3.39-1, Figure3.39），休日の睡眠時間（Table3. 39-2, Figure3.39），就寝状況（Table3.40），休日の昼寝の有無（Table3.41），休日の昼寝時間（Table3.42）について，各集計結果を以下に示した。

なお，平日および休日の睡眠時間は，平日および休日の起床時刻，就寝時刻の設問への回答から算出した。ただし，平日，休日それぞれで，起床時刻において「5 時以前」「10 時以降」，就寝時刻において「18 時以前」「24 時以降」のいずれかを回答した者は，平均的な睡眠時間を計算できないため集計から除外した。また，平日および休日の起床時刻，就寝時刻のいずれかに「決まっていない」と回答した者には，平均的な睡眠時間を別途尋ね，その値を平日・休日の睡眠時間として用いた。休日の昼寝時間の設問は，休日の昼寝について「いつもお昼寝する」「日によってお昼寝したりしなかったりする」のいずれかを回答した場合にのみ表示された。

平均的な睡眠時間については，平日・休日ともに 9 時間以上 11 時間未満の幅に 8 割前後の回答が集中する結果となった。ただし，この睡眠時間には昼寝時間が含まれていないため,「いつもお昼寝をする」(3.6%),「日によってお昼寝をしたりしなかったりする」(29.8%) を踏まえると，子どもの実際の睡眠時間はもう少し長いことに留意が必要である。就寝状況は,「保護者と同じ布団・ベッド等で寝る」が 7 割を超えており,「1 人部屋で寝る」は 1.0% と少ない。日本の伝統的習慣や住宅スペース事情が表れている結果と考えられる。

Table3.37: 対象のお子さんの起床時刻

	平日	休日
決まっていない	60 (0.8%)	913 (12.0%)
5時以前	21 (0.3%)	17 (0.2%)
5時30分頃	151 (2.0%)	120 (1.6%)
6時頃	883 (11.6%)	542 (7.1%)
6時30分頃	1,938 (25.4%)	946 (12.4%)
7時頃	2,760 (36.2%)	1,970 (25.8%)
7時30分頃	1,259 (16.5%)	1,250 (16.4%)
8時頃	483 (6.3%)	1,245 (16.3%)
8時30分頃	63 (0.8%)	346 (4.5%)
9時頃	11 (0.1%)	228 (3.0%)
9時30分頃	2 (0.0%)	36 (0.5%)
10時以降	1 (0.0%)	19 (0.2%)
総回答数： 7,632名		

Table3.38: 対象のお子さんの就寝時刻

	平日	休日
決まっていない	116 (1.5%)	509 (6.7%)
18時以前	3 (0.0%)	1 (0.0%)
18時30分頃	10 (0.1%)	9 (0.1%)
19時頃	47 (0.6%)	40 (0.5%)
19時30分頃	128 (1.7%)	91 (1.2%)
20時頃	493 (6.5%)	397 (5.2%)
20時30分頃	1,067 (14.0%)	778 (10.2%)
21時頃	2,189 (28.7%)	1,967 (25.8%)
21時30分頃	1,846 (24.2%)	1,684 (22.1%)
22時頃	1,150 (15.1%)	1,392 (18.2%)
22時30分頃	401 (5.3%)	469 (6.1%)
23時頃	138 (1.8%)	241 (3.2%)
23時30分頃	29 (0.4%)	38 (0.5%)
24時以降	15 (0.2%)	16 (0.2%)
総回答数： 7,632名		

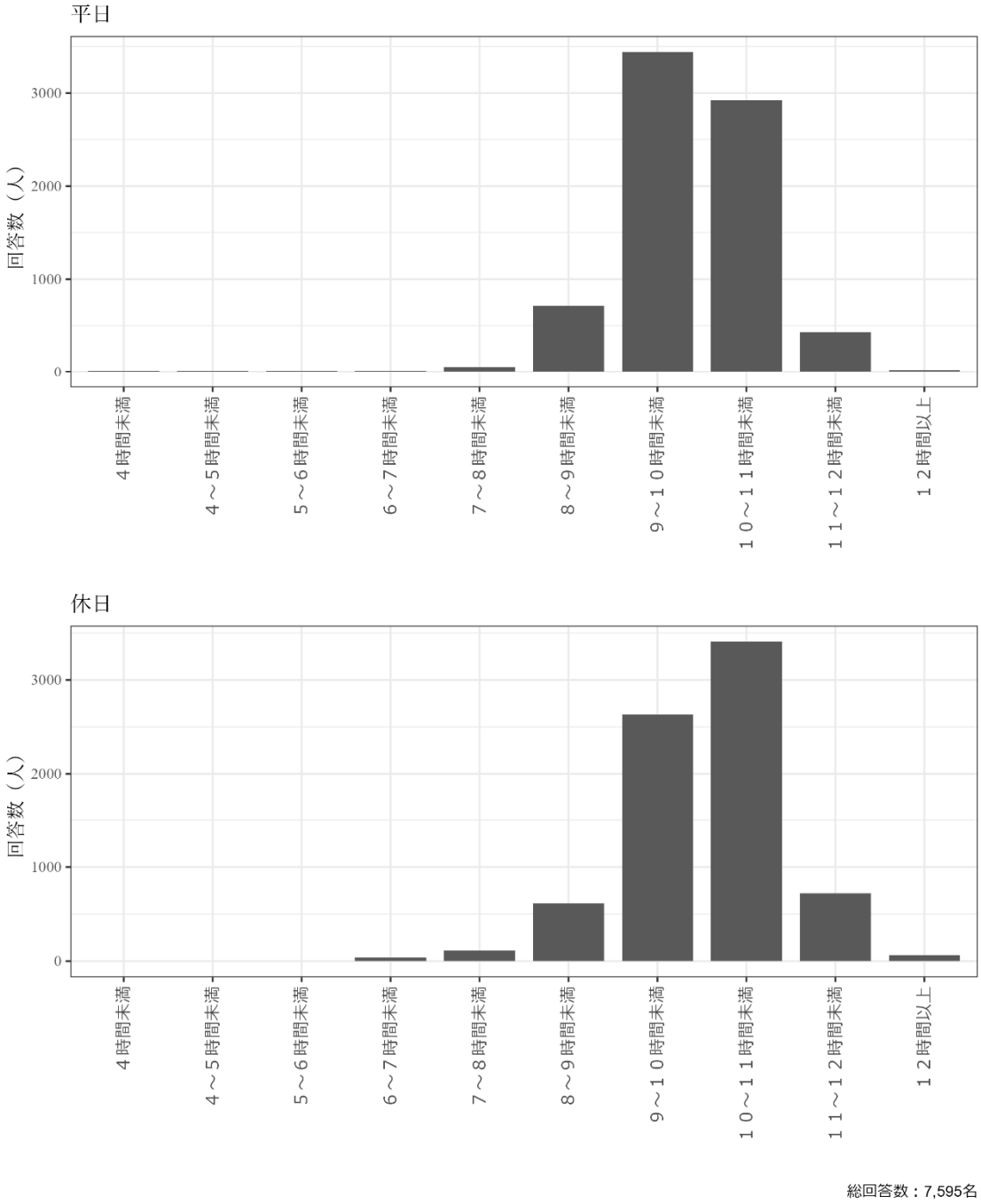
Table3.39-1: 対象のお子さんの【平日】の平均的な睡眠時間（一日当たり，昼寝時間は除く）

	回答数	割合
4時間未満	1	0.0%
4～5時間未満	1	0.0%
5～6時間未満	1	0.0%
6～7時間未満	13	0.2%
7～8時間未満	51	0.7%
8～9時間未満	715	9.4%
9～10時間未満	3,440	45.3%
10～11時間未満	2,925	38.5%
11～12時間未満	429	5.6%
12時間以上	19	0.3%
総回答数： 7,595名		

Table3.39-2: 対象のお子さんの【休日】の平均的な睡眠時間（一日当たり，昼寝時間は除く）

	回答数	割合
4時間未満	3	0.0%
4～5時間未満	0	0.0%
5～6時間未満	4	0.1%
6～7時間未満	37	0.5%
7～8時間未満	112	1.5%
8～9時間未満	614	8.1%
9～10時間未満	2,633	34.7%
10～11時間未満	3,407	44.9%
11～12時間未満	719	9.5%
12時間以上	66	0.9%
総回答数： 7,595名		

Figure3.39: 対象のお子さんの平均睡眠時間



総回答数：7,595名

Table3.40: 対象のお子さんの，ここ1か月で最も多い就寝状況を教えてください。寝かしつけ時は含まず，寝入った後の状況についてご回答ください。

	回答数	割合
保護者と同じ布団・ベッド等で寝る	5,466	71.6%
寝具は別だが保護者と同じ部屋で寝る	1,737	22.8%
保護者以外の人（きょうだいなど）と同じ寝具・部屋で寝る	353	4.6%
1人部屋で寝る	76	1.0%
総回答数： 7,632名		

Table3.41: 対象のお子さんは【休日】（お子さんが登園しない日）にお昼寝されますか。

	回答数	割合
いつもお昼寝する	271	3.6%
日によってお昼寝したりしなかったりする	2,272	29.8%
お昼寝しない	5,089	66.7%
総回答数： 7,632名		

Table3.42: 対象のお子さんの，ここ1か月の【休日】（お子さんが登園しない日）でお昼寝する日の，平均的な昼寝時間はどのくらいですか。

	回答数	割合
1時間未満	613	24.1%
1時間～1時間30分未満	967	38.0%
1時間30分～2時間未満	658	25.9%
2時間～2時間30分未満	222	8.7%
2時間30分～3時間未満	70	2.8%
3時間以上	13	0.5%
総回答数： 2,543名		

保護者と子どもが一緒に過ごす機会

続いて，Table3.43 から Table3.50 は，保護者と子どもが一緒に過ごす機会に関する集計結果である。普段の保育（子育て）をする人（Table3.43），普段の保育（子育て）をする人のうち，平日子どもと一緒にいる時間が最も長い人（Table3.44），母親が子どもと過ごす時間（Table3.45），父親が子どもと過ごす時間（Table3.46），父母以外の主たる養育者が子どもと過ごす時間（Table3.47），1 週間当たりの母親が子どもと食事をする回数（Table3.48），1 週間当たりの父親が子どもと食事をする回数（Table3.49），1 週間当たりの父母以外の主たる養育者が子どもと食事をする回数（Table3.50）について，各集計結果を示した。なお，

母親・父親が子どもと過ごす時間，母親・父親が子どもと食事する回数の設問はそれぞれ，回答者の続柄として選択されていた場合，同居家族で選択されていた場合，単身赴任者として選択されていた場合に表示された。父母以外の養育者が子どもと過ごす時間，父母以外の養育者が子どもと食事をする回数は，回答者の続柄が「お母さん」「お父さん」以外の場合にのみ表示された。また，子どもと過ごす時間は，睡眠時間を除く時間について回答を求めた。

普段の保育（子育て）をする人に関しては，「お母さん」(99.2%)，「お父さん」(75.2%)，「園の先生たち」(63.1%) の回答割合が突出する結果となった。一方で平日に最も長く子どもと一緒にいる人については，「お母さん」(65.9%)，「園の先生たち」(31.1%) の割合が変わらず大きい一方，「お父さん」は 1.9%に留まった。

平日に母親が子どもと過ごす時間は，「5～6 時間未満」が 17.2%と最大であるが，「3～4 時間未満」，「8～9 時間未満」もそれぞれ 1 割程度を占めるなど，回答が幅広く分布していた。一方，平日父親が子どもと過ごす時間は「2～3 時間未満」が 21.3%と最大であり，全体の 9 割弱が「1 時間未満」から「4～5 時間未満」の間に収まっていた。休日については，母親が子どもと過ごす時間は，8 割以上が「11 時間以上」と回答しており，ほぼ一日子どもと一緒に過ごしていることがわかる。父親も，休日に子どもと一緒に過ごす時間は「11 時間以上」の回答が 57.0%と最も多かったものの，平日も休日も父親に比べ母親の方が子どもと長い時間を過ごしている実態が明らかとなった。

母親との食事回数は「16 回」の回答が 66.2%と顕著に大きいが，この回数は平日 5 日間の朝食・夕食と休日 2 日間の朝食・昼食・夕食の和と一致する。父親との食事回数についても「16 回」の回答割合が最大であったものの割合としては 14.9%であり，母親に比べて父親の方が食事回数のばらつきが大きい結果となっている。

Table3.43: 対象のお子さんの普段の保育（子育て）はどなたがしていますか（複数選択可）

	回答数	割合
お母さん	7,570	99.2%
お父さん	5,738	75.2%
お母さんの母親	1,219	16.0%
お母さんの父親	557	7.3%
お父さんの母親	480	6.3%
お父さんの父親	251	3.3%
園の先生たち	4,817	63.1%
保育ママさんやベビーシッター	51	0.7%
その他	187	2.5%
総回答数： 7,632名		

Table3.44: 普段の保育（子育て）をしている人のうち，平日お子さんと一緒にいる時間が一番長いのはどなたですか。

	回答数	割合
お母さん	5,031	65.9%
お父さん	143	1.9%
お母さんの母親	53	0.7%
お母さんの父親	2	0.0%
お父さんの母親	19	0.2%
お父さんの父親	3	0.0%
園の先生たち	2,375	31.1%
保育ママさんやベビーシッター	1	0.0%
その他	5	0.1%
総回答数： 7,632名		

Table3.45:【お母さん】が対象のお子さんと一緒に過ごす時間

	平日	休日
1時間未満	19 (0.2%)	8 (0.1%)
1～2時間未満	82 (1.1%)	14 (0.2%)
2～3時間未満	285 (3.7%)	24 (0.3%)
3～4時間未満	765 (10.1%)	83 (1.1%)
4～5時間未満	1,277 (16.8%)	124 (1.6%)
5～6時間未満	1,305 (17.2%)	61 (0.8%)
6～7時間未満	1,173 (15.4%)	76 (1.0%)
7～8時間未満	1,104 (14.5%)	114 (1.5%)
8～9時間未満	764 (10.0%)	177 (2.3%)
9～10時間未満	379 (5.0%)	291 (3.8%)
10～11時間未満	125 (1.6%)	435 (5.7%)
11時間以上	328 (4.3%)	6,199 (81.5%)
総回答数： 7,606名		

Table3.46: 【お父さん】が対象のお子さんと一緒に過ごす時間

	平日	休日
1時間未満	1,210 (17.0%)	179 (2.5%)
1～2時間未満	1,390 (19.5%)	113 (1.6%)
2～3時間未満	1,522 (21.3%)	160 (2.2%)
3～4時間未満	1,272 (17.8%)	215 (3.0%)
4～5時間未満	852 (11.9%)	242 (3.4%)
5～6時間未満	470 (6.6%)	263 (3.7%)
6～7時間未満	173 (2.4%)	231 (3.2%)
7～8時間未満	82 (1.1%)	310 (4.3%)
8～9時間未満	51 (0.7%)	336 (4.7%)
9～10時間未満	38 (0.5%)	465 (6.5%)
10～11時間未満	26 (0.4%)	555 (7.8%)
11時間以上	51 (0.7%)	4,068 (57.0%)
総回答数： 7,137名		

Table3.47: 父母以外の主たる養育者の方(あなた)が対象のお子さんと一緒に過ごす時間(回答者が父母以外の場合の設問)

	平日	休日
1時間未満	4 (19.0%)	4 (19.0%)
1～2時間未満	1 (4.8%)	1 (4.8%)
2～3時間未満	1 (4.8%)	1 (4.8%)
3～4時間未満	1 (4.8%)	1 (4.8%)
4～5時間未満	5 (23.8%)	2 (9.5%)
5～6時間未満	3 (14.3%)	0 (0.0%)
6～7時間未満	4 (19.0%)	1 (4.8%)
7～8時間未満	0 (0.0%)	0 (0.0%)
8～9時間未満	0 (0.0%)	1 (4.8%)
9～10時間未満	1 (4.8%)	0 (0.0%)
10～11時間未満	0 (0.0%)	2 (9.5%)
11時間以上	1 (4.8%)	8 (38.1%)
総回答数: 21名		

Table3.48: 【お母さん】が対象のお子さんと一緒に食事する回数（1週間当たり）

	回答数	割合
0回	14	0.2%
1回	27	0.4%
2回	72	0.9%
3回	38	0.5%
4回	24	0.3%
5回	16	0.2%
6回	32	0.4%
7回	76	1.0%
8回	38	0.5%
9回	201	2.6%
10回	188	2.5%
11回	393	5.2%
12回	139	1.8%
13回	136	1.8%
14回	258	3.4%
15回	245	3.2%
16回	5,037	66.2%
17回	214	2.8%
18回	64	0.8%
19回	19	0.2%
20回	38	0.5%
21回	272	3.6%
22回以上	65	0.9%
総回答数： 7,606名		

Table3.49: 【お父さん】が対象のお子さんと一緒に食事する回数（1週間当たり）

	回答数	割合
0回	167	2.3%
1回	86	1.2%
2回	200	2.8%
3回	219	3.1%
4回	397	5.6%
5回	269	3.8%
6回	754	10.6%
7回	389	5.5%
8回	402	5.6%
9回	587	8.2%
10回	767	10.7%
11回	868	12.2%
12回	261	3.7%
13回	235	3.3%
14回	208	2.9%
15回	134	1.9%
16回	1,063	14.9%
17回	17	0.2%
18回	14	0.2%
19回	9	0.1%
20回	12	0.2%
21回	57	0.8%
22回以上	22	0.3%
総回答数： 7,137名		

Table3.50: 父母以外の主たる養育者の方（あなた）が対象のお子さんと一緒に食事する回数（1週間当たり）（回答者が父母以外の場合の設問）

	回答数	割合
0回	2	9.5%
1回	0	0.0%
2回	3	14.3%
3回	0	0.0%
4回	1	4.8%
5回	1	4.8%
6回	0	0.0%
7回	1	4.8%
8回	1	4.8%
9回	2	9.5%
10回	0	0.0%
11回	0	0.0%
12回	1	4.8%
13回	0	0.0%
14回	2	9.5%
15回	2	9.5%
16回	5	23.8%
17回	0	0.0%
18回	0	0.0%
19回	0	0.0%
20回	0	0.0%
21回	0	0.0%
22回以上	0	0.0%
総回答数： 21名		

デジタル機器の利用状況

Table3.51 から Table3.53 は，調査対象となる子どものデジタル機器の利用状況に関する集計結果である。デジタル機器利用状況は，テレビ，スマートフォン，タブレット，PC，ゲーム機を全て合わせたものである。一日にデジタル機器を利用する時間（Table3.51），平日のデジタル機器利用における知育・学習コンテンツの視聴・利用と娯楽コンテンツの視聴・利用の割合（Table3.52-1），休日のデジタル機器利用における知育・学習コンテンツの

視聴・利用と娯楽コンテンツの視聴・利用の割合（Table3.52-2），平日のデジタル機器の子ども一人での視聴・利用と誰かとの視聴・利用の割合（Table3.53-1），休日のデジタル機器の子ども一人での視聴・利用と誰かとの視聴・利用の割合（Table3.53-2）について，各集計結果を以下に示した。なお，デジタル機器利用における知育・学習コンテンツの視聴・利用と娯楽コンテンツの視聴・利用の割合，デジタル機器における子ども一人での視聴・利用と誰かとの視聴・利用の割合の設問は，一日にデジタル機器を利用する時間の設問において「全く利用しない（0 分）」以外の回答をした者に表示された。回答形式は，10%刻みで連続的に位置を指定できるスライダー形式であった。

平日のデジタル機器利用時間は「1 時間～2 時間未満」が 33.7%と最多であったものの，「全く利用しない（0 分）」から「7 時間以上」まで，ばらつきが大きい結果となった。休日のデジタル機器利用時間は「2 時間～3 時間未満」が 22.4%と最多であり，平日に比べて長時間利用の割合が高く，回答の分布もよりなだらかであった。また，知育・学習コンテンツと娯楽コンテンツの視聴・利用の割合については，平日・休日ともに，およそ 1：3 の比率で娯楽での利用が多いという結果となった。子ども一人での視聴・利用と誰かとの視聴・利用の割合については，平日・休日ともに同程度であった。

Table3.51: 対象のお子さんがご家庭で，一日にデジタル機器（テレビ，スマートフォン，タブレット，PC，ゲーム機を全て合わせて）を利用する時間として最も近いのはどれですか。

	平日	休日
全く利用しない（0分）	202 (2.6%)	91 (1.2%)
1分～30分未満	588 (7.7%)	217 (2.8%)
30分～1時間未満	1,397 (18.3%)	555 (7.3%)
1時間～2時間未満	2,572 (33.7%)	1,487 (19.5%)
2時間～3時間未満	1,641 (21.5%)	1,708 (22.4%)
3時間～4時間未満	725 (9.5%)	1,431 (18.8%)
4時間～5時間未満	293 (3.8%)	944 (12.4%)
5時間～6時間未満	147 (1.9%)	669 (8.8%)
6時間～7時間未満	43 (0.6%)	265 (3.5%)
7時間以上	24 (0.3%)	265 (3.5%)
総回答数： 7,632名		

Table3.52-1: 一日にデジタル機器を使って知育・学習コンテンツ（教育番組・教材など）を視聴・利用する時間と，娯楽コンテンツ（動画・ゲームなど）を視聴・利用する時間の割合（平日）

	回答数	割合
【学習】0% : 【娯楽】100%	2,151	29.0%
【学習】10% : 【娯楽】90%	1,027	13.8%
【学習】20% : 【娯楽】80%	1,134	15.3%
【学習】30% : 【娯楽】70%	927	12.5%
【学習】40% : 【娯楽】60%	382	5.1%
【学習】50% : 【娯楽】50%	1,020	13.7%
【学習】60% : 【娯楽】40%	154	2.1%
【学習】70% : 【娯楽】30%	203	2.7%
【学習】80% : 【娯楽】20%	169	2.3%
【学習】90% : 【娯楽】10%	115	1.5%
【学習】100% : 【娯楽】0%	148	2.0%
総回答数： 7,430名		

Table3.52-2: 一日にデジタル機器を使って知育・学習コンテンツ（教育番組・教材など）を視聴・利用する時間と，娯楽コンテンツ（動画・ゲームなど）を視聴・利用する時間の割合（休日）

	回答数	割合
【学習】0% : 【娯楽】100%	2,243	29.7%
【学習】10% : 【娯楽】90%	1,249	16.6%
【学習】20% : 【娯楽】80%	1,351	17.9%
【学習】30% : 【娯楽】70%	1,040	13.8%
【学習】40% : 【娯楽】60%	349	4.6%
【学習】50% : 【娯楽】50%	759	10.1%
【学習】60% : 【娯楽】40%	125	1.7%
【学習】70% : 【娯楽】30%	154	2.0%
【学習】80% : 【娯楽】20%	99	1.3%
【学習】90% : 【娯楽】10%	89	1.2%
【学習】100% : 【娯楽】0%	83	1.1%
総回答数： 7,541名		

Table3.53-1: 一日にデジタル機器をお子さんが1人で視聴・利用する時間と，誰か（保護者，きょうだいなど）と一緒に視聴・利用する時間の割合（平日）

	回答数	割合
【1人で】0% : 【誰かと】100%	1,257	16.9%
【1人で】10% : 【誰かと】90%	542	7.3%
【1人で】20% : 【誰かと】80%	561	7.6%
【1人で】30% : 【誰かと】70%	366	4.9%
【1人で】40% : 【誰かと】60%	204	2.7%
【1人で】50% : 【誰かと】50%	1,702	22.9%
【1人で】60% : 【誰かと】40%	308	4.1%
【1人で】70% : 【誰かと】30%	578	7.8%
【1人で】80% : 【誰かと】20%	588	7.9%
【1人で】90% : 【誰かと】10%	543	7.3%
【1人で】100% : 【誰かと】0%	781	10.5%
総回答数： 7,430名		

Table3.53-2: 一日にデジタル機器をお子さんが1人で視聴・利用する時間と，誰か（保護者，きょうだいなど）と一緒に視聴・利用する時間の割合（休日）

	回答数	割合
【1人で】0% : 【誰かと】100%	1,391	18.4%
【1人で】10% : 【誰かと】90%	575	7.6%
【1人で】20% : 【誰かと】80%	652	8.6%
【1人で】30% : 【誰かと】70%	474	6.3%
【1人で】40% : 【誰かと】60%	244	3.2%
【1人で】50% : 【誰かと】50%	1,783	23.6%
【1人で】60% : 【誰かと】40%	373	4.9%
【1人で】70% : 【誰かと】30%	562	7.5%
【1人で】80% : 【誰かと】20%	560	7.4%
【1人で】90% : 【誰かと】10%	414	5.5%
【1人で】100% : 【誰かと】0%	513	6.8%
総回答数： 7,541名		

6）家庭での教育，子育て

家庭での読書習慣

Table3.54 および Table3.55 は，家庭での読書習慣に関する集計結果である。一人での絵本・本の読書時間（Table3.54）については，平均して 1 日に「30 分未満」の回答割合が最も大きく 57.6%を占め，次いで「読まない」が 26.6%という結果となった。子ども本人の読書習慣には，園や家庭の読書環境（蔵書数や読み聞かせなど共同読みの習慣），図書館の利用習慣などが影響すると考えられるため，今後の検討が必要である。 絵本・本の読み聞かせなどの共同読みの頻度（Table3.55）について，集計結果を以下に示した。なお，読み聞かせの開始時期に関する設問は，アンケート画面上の分岐設定のミスにより一部の回答者に対して正しく表示されなかったため，結果の報告は割愛する。絵本・本の共同読みの頻度の回答から，5 歳児である現在においても 8 割超が家庭での共同読みを行っていることがわかる。頻度としては「週 1 日」の回答割合が最も大きく 31.1%であるが，次いで「毎日」の回答割合が 16.5%と，開きのある結果となった。一部の家庭では共同読みが習慣的に行われている一方，全く行われていない家庭も少なくなく，家庭における共同読みの頻度が二極化の傾向にあることが示唆された。

Table3.54: 対象のお子さんは平均して1日に何分程度，一人で本や絵本を読んでいますか（電子書籍を含みます。漫画や雑誌，教科書や参考書は含みません）。

	回答数	割合
読まない	2,031	26.6%
30分未満	4,398	57.6%
30分～1時間未満	994	13.0%
1時間～1時間半未満	156	2.0%
1時間半～2時間未満	31	0.4%
2時間～2時間半未満	14	0.2%
2時間半～3時間未満	7	0.1%
3時間以上	1	0.0%
総回答数： 7,632名		

Table3.55: あなたは対象のお子さんに対して，読み聞かせなど，絵本や本を一緒に読むことをどれくらい行っていますか。

	回答数	割合
全くしていない	1,136	14.9%
週1日	2,372	31.1%
週2日	1,007	13.2%
週3日	793	10.4%
週4日	420	5.5%
週5日	449	5.9%
週6日	196	2.6%
毎日	1,259	16.5%
総回答数： 7,632名		

家庭教育，教育に関する意識

次に，Table.3.56 から Table.3.63 は，家庭教育への意識に関する集計結果である。習い事（Table3.56），学習や能力向上を目的として行われる家庭での取り組み（Table3.57），教育費（Table3.58），子どもの進学への期待（Table3.59），子どもの留学への期待（Table3.60）について，各集計結果を以下に示した。

子どもに何らかの習い事をさせている回答者の割合は 7 割近くに上り，中でも「スポーツ（スイミング・体操・球技・武道など）」が 45.0%と突出している。次いで「教材が送られてくる通信教育（タブレット教材含む）」が 16.2%となった。また，学習や能力向上を目的として行われる家庭での取り組みについては，「読み」「書き」を行っている回答者の割合はいずれも 6 割以上，「足し算・引き算」を行っている回答者も 4 割以上に達している。1 か月当たりの教育費は「5 千円未満」から「1 万~2 万円未満」の回答の間に 8 割が収まった。子どもの進学への期待では，7 割を超える回答者が子どもに大学まで進学してほしいと期待しており，保護者の教育意識が一定程度高いことがうかがえる結果となった。留学への期待については，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のいずれかを回答した割合と，「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」のいずれかを回答した割合がほぼ同程度であった。

続いて，文字・数量・五感を使った探究への興味を引き出す保護者のかかわり（Table3.61），就学準備的な教育（Table3.62），家族で出かける頻度（Table3.63）について，各集計結果を以下に示した。

文字・数量・五感を使った探究への興味を引き出す保護者のかかわりについては，文字・数量・五感を使った探究に関する 3 項目とも 7 割程度が「どちらかといえばそうしている」「だいたいそうしている」「いつもそうしている」のいずれかを回答しており，多くの保護者が日常的にこれらへの興味を引き出そうとするかかわりを行っていることがわかる。ま

た，就学準備的な教育については，行動習慣，生活習慣，教科学習の準備や予習に関する 3 項目とも半数以上が「ややあてはまる」「とてもあてはまる」のいずれかを回答しており，一定数の家庭で就学準備的な教育が行われていることが見て取れる結果となった。

過去 1 年の間の家族で出かける頻度については，「水族館や動物園などに出かける」「遊園地や娯楽施設に出かける」「図書館に行く」が，「3 回以上」の回答割合がそれぞれ 4 割を超えていた。一方，「博物館や美術館，音楽鑑賞などに出かける」「スポーツ観戦などに出かける」は，「3 回以上」の回答割合が 1 割程度で，比較的機会が少ないといえる。

Table3.56: 現在，対象のお子さんは習い事をしていますか。（複数選択可）

	回答数	割合
スポーツ（スイミング・体操・球技・武道など）	3,438	45.0%
バレエ・ダンス・チアリーディング	754	9.9%
リトミック・楽器	1,141	15.0%
絵画・造形	215	2.8%
英会話などの語学教室	1,064	13.9%
教材が送られてくる通信教育（タブレット教材含む）	1,234	16.2%
小学校受験目的の塾	168	2.2%
受験目的ではない学習塾や計算・かきとりの教室	806	10.6%
プログラミング・ロボット製作	69	0.9%
その他	357	4.7%
いずれもあてはまらない	2,428	31.8%
総回答数： 7,632名		

Table3.57: 対象のお子さんの学習や能力向上のために，ご家族の方がご家庭で行っていることはありますか。（習い事は除く，複数選択可）

	回答数	割合
読み	4,994	65.4%
書き	4,873	63.8%
外国語	1,200	15.7%
足し算・引き算	3,317	43.5%
かけ算・わり算	508	6.7%
音楽	1,805	23.7%
絵画・造形	1,277	16.7%
スポーツ	2,051	26.9%
いずれもあてはまらない	1,333	17.5%
総回答数： 7,632名		

Table3.58: 対象のお子さんにかかる1か月あたりの平均的な教育費（絵本・本・教材，習いごと・通信教育，塾・家庭教師，教育系アプリの利用料など）はどれくらいですか。

	回答数	割合
5千円未満	3,145	41.2%
5千～1万円未満	1,597	20.9%
1万～2万円未満	1,663	21.8%
2万～3万円未満	620	8.1%
3万～4万円未満	232	3.0%
4万～5万円未満	137	1.8%
5万～6万円未満	91	1.2%
6万～7万円未満	30	0.4%
7万～8万円未満	25	0.3%
8万円以上	92	1.2%
総回答数： 7,632名		

Table3.59: あなたは，対象のお子さんにどの段階の学校まで進んでほしいと思いますか。現在のお考えにもっとも近いものを1つお選びください。

	回答数	割合
中学校まで	25	0.3%
高等学校まで	842	11.0%
専門学校（高等学校卒業後に進学するもの）まで	452	5.9%
高等専門学校・短期大学まで	347	4.5%
大学まで	5,446	71.4%
大学院（6年制大学含む）まで	365	4.8%
その他	155	2.0%
総回答数： 7,632名		

Table3.60: あなたは，将来，対象のお子さんに留学（海外学校への進学も含む）をしてほしいと思いますか。

	回答数	割合
そう思う	1,155	15.1%
どちらかといえば，そう思う	2,780	36.4%
どちらかといえば，そう思わない	2,014	26.4%
そう思わない	1,683	22.1%
総回答数： 7,632名		

Table3.61: 対象のお子さんへのあなたご自身の関わりについてお聞きします。以下の項目それぞれについて，あてはまるものをお選びください。

	全くそうしていない	めったにそうしていない	どちらかといえばそうしていない	どちらかといえばそうしている	だいたいそうしている	いつもそうしている
遊びや生活の中で，子どもが身の回りの文字に親しめるようにしている（例：ポスターの文字や名前ラベルの文字への子どもの注意を引く）	566 (7.4%)	750 (9.8%)	981 (12.9%)	2,914 (38.2%)	1,463 (19.2%)	958 (12.6%)
遊びや生活の中で，子どもが数量に親しめるようにしている（例：人数を数えたり，積み木の高さを測ることを促す）	364 (4.8%)	545 (7.1%)	1,083 (14.2%)	3,155 (41.3%)	1,590 (20.8%)	895 (11.7%)
遊びや生活の中で，興味をもった事物を，五感を使って探究できるようにしている（例． 見るだけでなく，触ったり匂いをかいだりすることを促す）	263 (3.4%)	468 (6.1%)	1,188 (15.6%)	3,032 (39.7%)	1,655 (21.7%)	1,026 (13.4%)
総回答数： 7,632名						

Table3.62: 家庭における，就学準備的な教育についてお聞きします（習い事は除く）。以下の項目それぞれについて，どの程度あてはまるかをお選びください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	とてもあてはまる
小学校に合わせた行動習慣を，家庭で身につけさせている／させようとしている（例：イスに座って作業する，少し長めの大人の話を聞く，集団行動）	710 (9.3%)	1,444 (18.9%)	1,568 (20.5%)	2,891 (37.9%)	1,019 (13.4%)
小学校に合わせた生活習慣を，家庭で身につけさせている／させようとしている（例：登校時間に合わせて起床する，時間内に食事を終える，通学路と同じ距離を歩く）	715 (9.4%)	1,287 (16.9%)	1,451 (19.0%)	3,007 (39.4%)	1,172 (15.4%)
小学校教科の準備や予習となるものを，家庭で行っている／行おうとしている（例：文字の読み書き，簡単な計算，体育種目の練習）	955 (12.5%)	1,168 (15.3%)	1,396 (18.3%)	2,959 (38.8%)	1,154 (15.1%)
総回答数： 7,632名					

Table3.63: 過去1年の間に，対象のお子さんとご家族が一緒に以下の体験をした回数を教えてください。

	まったくない	1～2回	3回以上
キャンプやハイキングなどに出かける	3,454 (45.3%)	2,512 (32.9%)	1,666 (21.8%)
水族館や動物園などに出かける	417 (5.5%)	3,662 (48.0%)	3,553 (46.6%)
博物館や美術館，音楽鑑賞などに出かける	3,730 (48.9%)	2,817 (36.9%)	1,085 (14.2%)
遊園地など娯楽施設に出かける	536 (7.0%)	3,647 (47.8%)	3,449 (45.2%)
スポーツ観戦などに出かける	5,231 (68.5%)	1,601 (21.0%)	800 (10.5%)
図書館に行く	2,816 (36.9%)	1,464 (19.2%)	3,352 (43.9%)
総回答数： 7,632名			

保護者の養育スタイル

Table.3.64-1, 64-2 は，保護者の養育スタイルに関する集計結果である。測定には，warmth, hostility, permissiveness, harsh control の 4 次元で養育スタイルを測定する Okubo et al.（2022）の「養育スタイル尺度」を用いた。「時間があるときは，子どもと一緒に遊ぶようにしている」から「子どもが自分に何でも話してくれるように接している」の warmth に当たる 5 項目については，8 割以上が「少しあてはまる」「あてはまる」「非常によくあてはまる」のいずれかを回答しており，多くの家庭で温かい養育が行われていることがわかる。一

方，「子どもにイライラして，攻撃的に接することがある」から「子どもに腹が立ったときに，わざと意地悪なことを言うことがある」の hostility に当たる 6 項目についても半数以上が「少しあてはまる」「あてはまる」「非常によくあてはまる」のいずれかを回答していた。温かい養育と敵意的な養育は対照的に見えるものの，実際の親子関係において両者は共存しうる。本調査のように，複数次元から養育スタイルを検討してくことが重要だと考えられる。

Table3.64-1: あなたは日頃，対象のお子さんと以下のことをどれくらいしていますか。

	全くあてはまらない	あてはまらない	あまりあてはまらない	少しあてはまる	あてはまる	非常によくあてはまる
時間があるときは，子どもと一緒に遊ぶようにしている	34 (0.4%)	117 (1.5%)	626 (8.2%)	2,648 (34.7%)	2,999 (39.3%)	1,208 (15.8%)
子どもに対して，自分から積極的に話をする	29 (0.4%)	83 (1.1%)	549 (7.2%)	2,007 (26.3%)	3,170 (41.5%)	1,794 (23.5%)
子どもが泣いているときでも，落ち着いて，子どもが何を思っているかを気にかける	44 (0.6%)	162 (2.1%)	815 (10.7%)	2,920 (38.3%)	2,748 (36.0%)	943 (12.4%)
時間があるときは，なるべく子どものそばにいるようにする	31 (0.4%)	98 (1.3%)	540 (7.1%)	2,153 (28.2%)	3,237 (42.4%)	1,573 (20.6%)
子どもが自分に何でも話してくれるように接している	44 (0.6%)	98 (1.3%)	643 (8.4%)	2,449 (32.1%)	3,025 (39.6%)	1,373 (18.0%)
子どもにイライラして，攻撃的に接することがある	788 (10.3%)	1,074 (14.1%)	1,795 (23.5%)	2,853 (37.4%)	894 (11.7%)	228 (3.0%)
子どもに自分のストレスや怒りをぶつけてしまうことがある	776 (10.2%)	1,086 (14.2%)	1,779 (23.3%)	3,011 (39.5%)	791 (10.4%)	189 (2.5%)
子どものふるまいにイライラすることがある	281 (3.7%)	498 (6.5%)	1,048 (13.7%)	3,360 (44.0%)	1,868 (24.5%)	577 (7.6%)
子どもに，つい命令口調で物事を伝えることがある	549 (7.2%)	795 (10.4%)	1,421 (18.6%)	3,123 (40.9%)	1,425 (18.7%)	319 (4.2%)
子どもの言動に対して，怒ってしまうことがよくある	210 (2.8%)	608 (8.0%)	1,328 (17.4%)	3,199 (41.9%)	1,770 (23.2%)	517 (6.8%)
子どもに腹が立ったときに，わざと意地悪なことを言うことがある	884 (11.6%)	1,119 (14.7%)	1,885 (24.7%)	2,875 (37.7%)	698 (9.1%)	171 (2.2%)

総回答数： 7,632名

Table3.64-2: あなたは日頃，対象のお子さんと以下のことをどれくらいしていますか。

	全くあてはまらない	あてはまらない	あまりあてはまらない	少しあてはまる	あてはまる	非常によくあてはまる
子どもが同じ問題を起こしても，怒ったり怒らなかったりすることがある	1,000 (13.1%)	1,977 (25.9%)	2,573 (33.7%)	1,655 (21.7%)	368 (4.8%)	59 (0.8%)
子どもが何かに取り組んでいるとき，つい手助けすることがある	311 (4.1%)	812 (10.6%)	2,164 (28.4%)	3,398 (44.5%)	823 (10.8%)	124 (1.6%)
子どもが泣いたり怒ったりしたら，子どもの言うことを聞いてしまう	1,282 (16.8%)	1,977 (25.9%)	2,625 (34.4%)	1,435 (18.8%)	262 (3.4%)	51 (0.7%)
子どもが言うことを聞かないときは，あきらめて子どもの言う通りにする	1,405 (18.4%)	1,994 (26.1%)	2,618 (34.3%)	1,387 (18.2%)	199 (2.6%)	29 (0.4%)
他の子どもと一緒にいるときに，自分の子どもを特別扱いすることがある	1,974 (25.9%)	2,167 (28.4%)	2,566 (33.6%)	731 (9.6%)	159 (2.1%)	35 (0.5%)
子どもが泣いているときは，早く泣き止むよう言い聞かせる	763 (10.0%)	1,283 (16.8%)	2,410 (31.6%)	2,289 (30.0%)	718 (9.4%)	169 (2.2%)
子どもにできないことがあったら，できるようになるまで何度もやらせている	434 (5.7%)	936 (12.3%)	2,684 (35.2%)	2,574 (33.7%)	832 (10.9%)	172 (2.3%)
子どもがルールを破ったら，理由にかかわらず，厳しくしかる	493 (6.5%)	1,100 (14.4%)	2,727 (35.7%)	2,276 (29.8%)	850 (11.1%)	186 (2.4%)
子どもが失敗しても，甘やかすようなことは言わない	422 (5.5%)	1,371 (18.0%)	3,131 (41.0%)	1,810 (23.7%)	734 (9.6%)	164 (2.1%)
子どもが決まりを破ったときは，次からは守るように何度も言い聞かせる	152 (2.0%)	349 (4.6%)	1,253 (16.4%)	2,984 (39.1%)	2,188 (28.7%)	706 (9.3%)

総回答数： 7,632名

7）子どもの発達

自己と社会性に関する心の力

Table3.65-1，65-2 は，子どもの自己と社会性に関わる非認知能力の集計結果である。測定には，浜名他（2025）の「CEDEP 式幼児用自己と社会性に関わる非認知能力尺度」の項目を用いた。内発的動機づけに当たる「活動や遊びそれ自体に面白さを見つけて，楽しんでいる」の項目は「ややあてはまる」「かなりあてはまる」「とてもあてはまる」のいずれかを回答した割合が 9 割を超えており，多くの子どもが活動や遊びを主体的に楽しんでいることがうかがえた。自尊心・自己肯定感に当たる「自分自身のことが好きである」，自律性・自立心に当たる「やりたいことを自分なりの考えに基づいてやる」，思いやり・共感に当たる「困っている人や落ち込んでいる人に思いやりを示す」などの項目も 9 割近くが「ややあてはまる」「かなりあてはまる」「とてもあてはまる」のいずれかを回答しており，これらの

心の力が幼児期からある程度育っていると保護者が認識していると考えられる。一方で，グリットに当たる「うまくいかなくても，やる気を失わない」，異時点間のコントロールに当たる「先のことを考えて，今やりたいことを一旦我慢する」の項目は，「ややあてはまる」「かなりあてはまる」「とてもあてはまる」のいずれかを回答した割合が過半数に届かず，小学校期以降に発達の実感が期待される心の力であると考えられる。

Table3.65-1: 次のことについて，対象のお子さんの現在の様子に最もあてはまると思うものを一つお選びください。

	全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらとも言えない	ややあてはまる	かなりあてはまる	とてもあてはまる
自分自身のことが好きである	17 (0.2%)	33 (0.4%)	94 (1.2%)	671 (8.8%)	1,895 (24.8%)	2,317 (30.4%)	2,605 (34.1%)
自分自身にはいいところがあると思っている	42 (0.6%)	62 (0.8%)	183 (2.4%)	1,101 (14.4%)	2,311 (30.3%)	2,038 (26.7%)	1,895 (24.8%)
活動や遊びそれ自体に面白さを見つけて，楽しんでいる	14 (0.2%)	42 (0.6%)	128 (1.7%)	407 (5.3%)	2,035 (26.7%)	2,482 (32.5%)	2,524 (33.1%)
何かをしているときでも，別の活動に移るよう指示されれば，すぐ切り替える	171 (2.2%)	413 (5.4%)	1,354 (17.7%)	1,486 (19.5%)	2,539 (33.3%)	1,123 (14.7%)	546 (7.2%)
うまくいかなくても，やる気を失わない	255 (3.3%)	604 (7.9%)	1,801 (23.6%)	2,010 (26.3%)	1,843 (24.1%)	752 (9.9%)	367 (4.8%)
やりたいことを自分なりの考えに基づいてやる	28 (0.4%)	50 (0.7%)	183 (2.4%)	595 (7.8%)	2,310 (30.3%)	2,498 (32.7%)	1,968 (25.8%)
先のことを考えて，今やりたいことを一旦我慢する	253 (3.3%)	621 (8.1%)	1,557 (20.4%)	1,655 (21.7%)	2,390 (31.3%)	837 (11.0%)	319 (4.2%)
以前した同じ失敗を繰り返さないために，自分の気持ちを抑えたり調整したりしている	162 (2.1%)	371 (4.9%)	1,068 (14.0%)	1,748 (22.9%)	2,835 (37.1%)	1,039 (13.6%)	409 (5.4%)

総回答数： 7,632名

Table3.65-2: 次のことについて，対象のお子さんの現在の様子に最もあてはまると思うものを一つお選びください。

	全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらとも言えない	ややあてはまる	かなりあてはまる	とてもあてはまる
他の人の立場にたって物事を考えている	138 (1.8%)	335 (4.4%)	994 (13.0%)	1,882 (24.7%)	2,715 (35.6%)	1,070 (14.0%)	498 (6.5%)
話し相手に合わせて，伝え方や表現を工夫する	198 (2.6%)	401 (5.3%)	1,062 (13.9%)	1,479 (19.4%)	2,473 (32.4%)	1,254 (16.4%)	765 (10.0%)
困っている人や落ち込んでいる人に思いやりを示す	46 (0.6%)	84 (1.1%)	261 (3.4%)	682 (8.9%)	2,708 (35.5%)	2,093 (27.4%)	1,758 (23.0%)
他の人を助ける	46 (0.6%)	79 (1.0%)	223 (2.9%)	692 (9.1%)	2,846 (37.3%)	2,159 (28.3%)	1,587 (20.8%)
何が良くて何が悪いかを考えたり，判断したりしている	59 (0.8%)	112 (1.5%)	351 (4.6%)	810 (10.6%)	2,958 (38.8%)	2,098 (27.5%)	1,244 (16.3%)
ルールや決まりを理解して守っている	43 (0.6%)	83 (1.1%)	326 (4.3%)	614 (8.0%)	2,757 (36.1%)	2,272 (29.8%)	1,537 (20.1%)
順番や規則を守って遊ぶ	32 (0.4%)	100 (1.3%)	261 (3.4%)	577 (7.6%)	2,499 (32.7%)	2,312 (30.3%)	1,851 (24.3%)

総回答数： 7,632名

子どもの強さと困難さアンケート（SDQ）

Table3.66-1，66-2 は， Goodman (1997) の「子どもの強さと困難さアンケート」(SDQ) の集計結果である。「他人の気持ちをよく気づかう」「他の子どもたちと，よく分け合う（おやつ・おもちゃ・鉛筆など)」で 9 割以上，「素直で，だいたいは大人のいうことをよくきく」「誰かが心を痛めていたり，落ち込んでいたり，嫌な思いをしているときなど，すすんで助ける」「自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど)」で 8 割以上の回答者が「まああてはまる」「あてはまる」のいずれかを選択しており，子どもたちの向社会性が高く評価されていた。この結果は，非認知能力における共感性・思いやりに関する結果と整合的であった。

Table3.66-1:「子どもの強さと困難さアンケート」あなたのお子さんのここ半年くらいの行動について答えてください。

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
他人の気持ちをよく気づかう	708 (9.3%)	3,913 (51.3%)	3,011 (39.5%)
おちつきがなく，長い間じっとしていられない	4,245 (55.6%)	2,285 (29.9%)	1,102 (14.4%)
頭がいたい，お腹がいたい，気持ちが悪いなどと，よくうったえる	5,403 (70.8%)	1,521 (19.9%)	708 (9.3%)
他の子どもたちと，よく分け合う（おやつ・おもちゃ・鉛筆など）	696 (9.1%)	3,987 (52.2%)	2,949 (38.6%)
カッとなったり，かんしゃくをおこしたりする事がよくある	3,705 (48.5%)	2,691 (35.3%)	1,236 (16.2%)
一人でいるのが好きで，一人で遊ぶことが多い	4,699 (61.6%)	2,269 (29.7%)	664 (8.7%)
素直で，だいたいは大人のいうことをよくきく	1,191 (15.6%)	4,032 (52.8%)	2,409 (31.6%)
心配ごとが多く，いつも不安なようだ	6,164 (80.8%)	1,157 (15.2%)	311 (4.1%)
誰かが心を痛めていたり，落ち込んでいたり，嫌な思いをしているときなど，すすんで助ける	1,077 (14.1%)	4,048 (53.0%)	2,507 (32.8%)
いつもそわそわしたり，もじもじしている	6,134 (80.4%)	1,161 (15.2%)	337 (4.4%)
仲の良い友だちが少なくとも一人はいる	870 (11.4%)	1,113 (14.6%)	5,649 (74.0%)
よく他の子とけんかをしたり，いじめたりする	6,764 (88.6%)	764 (10.0%)	104 (1.4%)

総回答数： 7,632名

Table3.66-2:「子どもの強さと困難さアンケート」あなたのお子さんのここ半年くらいの行動について答えてください。

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
おちこんでしずんでいたり，涙ぐんでいたりすることがよくある	5,676 (74.4%)	1,507 (19.7%)	449 (5.9%)
他の子どもたちから，だいたいは好かれているようだ	198 (2.6%)	3,615 (47.4%)	3,819 (50.0%)
すぐに気が散りやすく，注意を集中できない	4,403 (57.7%)	2,248 (29.5%)	981 (12.9%)
目新しい場面に直面すると不安ですがりついたり，すぐに自信をなくす	4,023 (52.7%)	2,574 (33.7%)	1,035 (13.6%)
年下の子どもたちに対してやさしい	332 (4.4%)	2,358 (30.9%)	4,942 (64.8%)
よくうそをついたり，ごまかしたりする	4,529 (59.3%)	2,549 (33.4%)	554 (7.3%)
他の子から，いじめの対象にされたり，からかわれたりする	6,802 (89.1%)	680 (8.9%)	150 (2.0%)
自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど）	994 (13.0%)	3,530 (46.3%)	3,108 (40.7%)
よく考えてから行動する	2,495 (32.7%)	3,839 (50.3%)	1,298 (17.0%)
家や学校，その他から物を盗んだりする	7,429 (97.3%)	146 (1.9%)	57 (0.7%)
他の子どもたちより，大人といる方がうまくいくようだ	5,354 (70.2%)	1,672 (21.9%)	606 (7.9%)
こわがりで，すぐにおびえたりする	4,283 (56.1%)	2,396 (31.4%)	953 (12.5%)
ものごとを最後までやりとげ，集中力もある	1,177 (15.4%)	4,067 (53.3%)	2,388 (31.3%)
総回答数： 7,632名			

生活スキル・認知的スキル・運動スキル

Table3.67-1，67-2 と Table3.68 は，子どもの生活スキルと認知的スキル（Table3.67-1，67-2），および，運動スキル（Table3.68）についての集計結果である。

子どもの生活スキルと認知的スキルについては，「マナーを守って食事ができる」，「脱いだ服を自分でたためる」，「活動や遊んだあと，片付けができる」，「次の日の準備や朝の支度を自分でしようとする」，「好き嫌いなく食事ができる」が生活スキルに関する項目であり，それ以外が認知的スキルに関する項目である。子どもの食事のマナーや身支度などの生活スキルについては，概ね過半数から 7 割超が「まああてはまる」「とてもあてはまる」のいずれかを回答していた。

認知的スキルに関する項目には，縦断調査で今後の変化を見るために，小学校期以降に学

習する内容の項目が複数含まれている。その中で,「1 から 10 までの数字を書ける」,「『あ』から『ん』，濁音（『ば』），半濁音（『ぱ』）の，かな文字を全て読める」の 2 項目は，5 割前後が「とてもあてはまる」と回答していた。「まああてはまる」を含めれば 7 割以上が回答しており，5 歳時点で既に多くの子どもが達成していると考えられる。一方,「アナログ時計の針を見て，時刻を読むことができる」といった項目は，過半数が「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」のいずれかを回答しており，小学校期以降での習得が進むと考えられる。

運動スキルには,「東アジアこども発達スケール」の身体能力に関する 10 項目を用いた。半数の項目で 8 割超の子どもが「だいたいできる」「よくできる」を回答した一方,「補助輪のない自転車に乗れる」と「なわとびができる（10 回以上）」の項目は，過半数が「まったくできない」「あまりできない」と回答しており，後者の能力は小学校期以降での習得が進むと考えられる。上記 2 項目については，日本・韓国・中国の子どもを対象に本尺度を用いた先行研究（青柳他，2013）でも日本の 5 歳児の「だいたいできる」「よくできる」のいずれかを回答した者は 3〜4 割と報告されており，整合的な結果である。

Table3.67-1: 現在お子さんは以下のことについて，どれくらいあてはまりますか。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	まああてはまる	とてもあてはまる
マナーを守って食事ができる	306 (4.0%)	2,073 (27.2%)	4,124 (54.0%)	1,129 (14.8%)
脱いだ服を自分でたためる	452 (5.9%)	1,130 (14.8%)	2,921 (38.3%)	3,129 (41.0%)
活動や遊んだあと，片付けができる	218 (2.9%)	1,576 (20.6%)	3,744 (49.1%)	2,094 (27.4%)
次の日の準備や朝の支度を自分でしようとする	1,348 (17.7%)	2,289 (30.0%)	2,403 (31.5%)	1,592 (20.9%)
好き嫌いなく食事ができる	1,321 (17.3%)	2,518 (33.0%)	2,618 (34.3%)	1,175 (15.4%)
指やおはじきなどを使って，数を足したり，引いたりすることができる	981 (12.9%)	1,200 (15.7%)	2,690 (35.2%)	2,761 (36.2%)
100を超えた数まで数えられる	1,758 (23.0%)	1,605 (21.0%)	1,684 (22.1%)	2,585 (33.9%)
1から10までの数字を書ける	701 (9.2%)	979 (12.8%)	1,681 (22.0%)	4,271 (56.0%)
「1個」「1本」などの数え方ができる	699 (9.2%)	2,072 (27.1%)	3,215 (42.1%)	1,646 (21.6%)
アナログ時計の針を見て，時刻を読むことができる	2,113 (27.7%)	2,844 (37.3%)	1,850 (24.2%)	825 (10.8%)

総回答数： 7,632名

Table3.67-2: 現在お子さんは以下のことについて，どれくらいあてはまりますか。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	まああてはまる	とてもあてはまる
絵本や物語，図鑑などの本を1人で読める	1,117 (14.6%)	1,656 (21.7%)	2,422 (31.7%)	2,437 (31.9%)
数行程度の文章を書くことができる	2,981 (39.1%)	1,556 (20.4%)	1,596 (20.9%)	1,499 (19.6%)
「あ」から「ん」，濁音（「ば」），半濁音（「ぱ」）の，かな文字を全て読める	1,108 (14.5%)	1,126 (14.8%)	1,914 (25.1%)	3,484 (45.6%)
接続詞（「そして」「しかし」など）を使い，文と文の続き方に気をつけて文章を書き表すことができる	3,054 (40.0%)	2,191 (28.7%)	1,422 (18.6%)	965 (12.6%)
語のまとまりに気をつけて音読できる	1,909 (25.0%)	2,262 (29.6%)	2,258 (29.6%)	1,203 (15.8%)
自分の言葉で順序を立てて，相手にわかるように話せる	536 (7.0%)	1,742 (22.8%)	3,724 (48.8%)	1,630 (21.4%)
「どうしてかというと」など，理由を話すことができる	429 (5.6%)	1,073 (14.1%)	3,227 (42.3%)	2,903 (38.0%)
相手の話を聞いて内容を捉え，感想を伝え合うことができる	549 (7.2%)	1,708 (22.4%)	3,703 (48.5%)	1,672 (21.9%)
適切に敬語を使える	2,206 (28.9%)	2,938 (38.5%)	1,994 (26.1%)	494 (6.5%)
かな文字を全て書ける	1,884 (24.7%)	1,803 (23.6%)	2,190 (28.7%)	1,755 (23.0%)

総回答数： 7,632名

Table3.68: 現在お子さんは以下のことについて，どれくらいあてはまりますか。

	まったくできない	あまりできない	だいたいできる	よくできる
コップに入れた水をこぼさずに運べる	30 (0.4%)	157 (2.1%)	2,265 (29.7%)	5,180 (67.9%)
リズムに合わせてスキップができる	295 (3.9%)	789 (10.3%)	2,218 (29.1%)	4,330 (56.7%)
ジャングルジムの上まで登ることができる	304 (4.0%)	861 (11.3%)	1,748 (22.9%)	4,719 (61.8%)
片足で10秒以上立っていることができる	148 (1.9%)	566 (7.4%)	2,329 (30.5%)	4,589 (60.1%)
投げられたボール(ドッジボールなど)を両手で受け取れる	254 (3.3%)	1,443 (18.9%)	2,839 (37.2%)	3,096 (40.6%)
1000mくらいなら，抱っこやおんぶなしで歩いていける	103 (1.3%)	337 (4.4%)	1,381 (18.1%)	5,811 (76.1%)
補助輪のない自転車に乗れる	3,351 (43.9%)	1,321 (17.3%)	618 (8.1%)	2,342 (30.7%)
なわとびができる(10回以上)	2,061 (27.0%)	2,458 (32.2%)	1,172 (15.4%)	1,941 (25.4%)
ころびそうになったとき手でかばえる	36 (0.5%)	280 (3.7%)	2,401 (31.5%)	4,915 (64.4%)
総回答数： 7,632名				

8）育児サポート，家事・育児の分担

Table3.69-1，69-2 から Table3.71 は，育児サポートや家事・育児の分担に関する集計結果である。子育て支援状況（Table 3.69-1），配偶者・配偶者の親族による子育て支援状況（Table 3.69-2），配偶者の家事・育児（Table3.70），配偶者との関係（Table3.71）についての各集計結果を以下に示した。なお，配偶者・配偶者の親族による子育て支援状況，配偶者の家事・育児，配偶者との関係の設問は，回答者が「お母さん」で同居家族または単身赴任項目で「お父さん」が選択された場合と，回答者が「お父さん」で同居家族または単身赴任項目で「お母さん」が選択された場合に表示され，回答者が父母以外の場合や，父母のどちらか一方がいない（同居も単身赴任もしていない）場合には表示されなかった。保育ママ・ベビーシッターによる子育て支援状況の設問は，普段の保育（子育て）をする人として「保育ママ・ベビーシッター」を選択した場合にのみ，表示された。

子育てへの支援状況として，「まあ頼りになる」と「とても頼りになる」のいずれかの回答を多く集めたのは「園（保育園，幼稚園，認定こども園など）の先生」（88.7%）と「配偶者」（86.7%）であり，子育てにおいて多くの保護者が保育者と配偶者を頼りにしていることが見て取れる結果となった。また，配偶者による家事・育児の負担については，「家事（食

事の準備・片付け，掃除，洗濯など)」で「よくする」が 44.5%，「よくする」「ときどきする」の合計が 76.1%となり，「子育て（世話をする，勉強を見る，遊ぶなど)」では「よくする」が 50.9%，「よくする」「ときどきする」の合計が 88.3%となるなど，一定程度の分担が進められていることが見て取れる結果となった。配偶者との関係については，「あなたと配偶者は幸せな結婚生活を送っている」については 9 割弱が，配偶者との話し合いや協力に関する項目についてはいずれも 7 割以上が，「まああてはまる」「とてもあてはまる」のいずれかを回答していた。

Table3.69-1: 子育てを支えてくれる人（悩みを相談したり，子どもを預けられる人）として，以下の人はどれくらい頼りになりますか。

	全く頼りにならない	あまり頼りにならない	まあ頼りになる	とても頼りになる
あなたの親族（親やきょうだい）	619 (8.1%)	1,039 (13.6%)	2,786 (36.5%)	3,188 (41.8%)
友人	1,031 (13.5%)	1,374 (18.0%)	3,252 (42.6%)	1,975 (25.9%)
子育て支援センターや児童館，療育センターの先生や職員	2,593 (34.0%)	1,979 (25.9%)	2,279 (29.9%)	781 (10.2%)
園（保育園，幼稚園，認定こども園など）の先生	183 (2.4%)	678 (8.9%)	3,571 (46.8%)	3,200 (41.9%)
保育ママさんやベビーシッター*	7 (0.1%)	3 (0.0%)	16 (0.2%)	25 (0.3%)

総回答数： 7,632名（* 総回答数: 51名）

Table3.69-2: 子育てを支えてくれる人（悩みを相談したり，子どもを預けられる人）として，以下の人はどれくらい頼りになりますか。（配偶者あり）

	全く頼りにならない	あまり頼りにならない	まあ頼りになる	とても頼りになる
配偶者	187 (2.6%)	753 (10.6%)	2,571 (36.2%)	3,589 (50.5%)
配偶者の親族（親やきょうだい）	1,543 (21.7%)	1,641 (23.1%)	2,392 (33.7%)	1,524 (21.5%)

総回答数： 7,100名

Table3.70: 配偶者の方の家事・育児についてお聞きします。以下の項目それぞれについて，あてはまるものをお選びください。

	全くしない	ほとんどしない	ときどきする	よくする
家事（食事の準備・片付け，掃除，洗濯など）	598 (8.4%)	1,099 (15.5%)	2,244 (31.6%)	3,159 (44.5%)
子育て（世話をする，勉強を見る，遊ぶなど）	178 (2.5%)	653 (9.2%)	2,653 (37.4%)	3,616 (50.9%)
園の先生と話す機会	2,007 (28.3%)	2,391 (33.7%)	1,737 (24.5%)	965 (13.6%)
総回答数： 7,100名				

Table3.71: あなたと配偶者のことについてお聞きします。以下の項目はどれくらいあてはまりますか。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	まああてはまる	とてもあてはまる
あなたと配偶者は幸せな結婚生活を送っている	202 (2.8%)	649 (9.1%)	3,263 (46.0%)	2,986 (42.1%)
あなたと配偶者は子どもをどう育てるかについてよく話し合っている	353 (5.0%)	1,262 (17.8%)	2,958 (41.7%)	2,527 (35.6%)
あなたと配偶者はお互いのこと（仕事や趣味など）をよく話し合っている	405 (5.7%)	1,270 (17.9%)	2,794 (39.4%)	2,631 (37.1%)
あなたと配偶者は子育てや家事をよく助け合っている	399 (5.6%)	1,058 (14.9%)	2,702 (38.1%)	2,941 (41.4%)
総回答数： 7,100名				

（橘孝昌・浜名真以）

3-2. 保護者調査　質問項目一覧

番号	表番号	質問項目
このアンケートは，現在 5 歳児クラスのお子さんの，ご家庭での育児に【主に関わっている方】が対象です。同程度育児に関わっている方が複数人いる場合は，より長い期間育児に関わっている方が回答してください。現在 5 歳児クラスのお子さんがお二人以上いる場合は，出生日時が早いお子さんお一人についてお答えください。		
Q1	Table3.1	最初に，このアンケートに回答している方（あなた）についてお聞きします。現在 5 歳児クラスのお子さん（以下，対象のお子さん）から見て，どなたがお答えになったかお教えください。
ご家族についてお聞きします。		
Q2	Table3.2 Table3.3	対象のお子さんはどなたと同居していますか？あてはまるものを【全て】選択してください。きょうだいの数については，人数を入力してください。 ※単身赴任等で長期不在の方であっても，3 ヶ月に 1 度以上の割合で帰宅する場合は同居に含めます。3 ヶ月を超えての不在の場合は同居に含めません。
Q3	図表なし	対象のお子さんのきょうだい（多胎児きょうだいも含む）の出生年月と性別をお知らせください。／性別（1 人目～10 人目まで回答可能）
Q4_A	図表なし	対象のお子さんのきょうだい（多胎児きょうだいも含む）の出生年月と性別をお知らせください。／出生年（1 人目～10 人目まで回答可能）
Q4_B	図表なし	対象のお子さんのきょうだい（多胎児きょうだいも含む）の出生年月と性別をお知らせください。／出生月（1 人目～10 人目まで回答可能）
Q5	Table3.4	対象のお子さんが生まれてから現在までの間に，お子さんに次のような経験はありましたか。あてはまるものを【全て】お選びください。
Q6	Table3.5	現在，以下の方は単身赴任中ですか？（それぞれひとつずつ） ※該当する人がいない場合は，「単身赴任中でない」とご回答ください。
(1)	同上	父親（または父親にかわる方）
(2)	同上	母親（または母親にかわる方）
Q7	Table3.6	現在，ご家庭内で主に使われている言語は日本語ですか。
対象のお子さん（現在，5 歳児クラス（年長児クラス）のお子さん）についてお聞きします。 ※現在年長のお子さんが複数人いる場合は，出生日時が早いお子さんお一人について回答してください。		
Q8	Table3.22	対象のお子さんの性別
Q9	Table3.23 Table3.24	対象のお子さんの生年月日【年】
Q10	Table3.24	対象のお子さんの生年月日【月】

Q11	同上	対象のお子さんの生年月日【日】
Q12	Table3.25	対象のお子さんの現在の身長・体重をお知らせください。 ※小数は四捨五入して，整数でご回答ください
(1)	Table3.25-1 Table3.25-2	身長／cm
(2)	Table3.25-1 Table3.25-3	体重／kg
Q13	Table3.26	対象のお子さんの現在の虫歯の状況をお知らせください。
Q14	Table3.27	対象のお子さんの健康・発達の状況について，あてはまるものを【全て】選択してください。
Q15	Table3.28	対象のお子さんはこれまでに 2 週間以上の長期入院の経験はありますか。
Q16	Table3.7	対象のお子さんのきょうだいの健康・発達の状況について，あてはまるものを【全て】選択してください。
Q17	Table3.21	現在行政などから受けている支援・サービスはありますか。あてはまるものを【全て】選んでください。
対象のお子さんの就園・通園状況についてお聞きします。		
Q18	Table3.29	対象のお子さんが**最初の園**に通い始めた時期（一時預かりなどでの利用は除く）をお知らせください。／年
Q19	表なし	対象のお子さんが**最初の園**に通い始めた時期（一時預かりなどでの利用は除く）をお知らせください。／月
Q20	Table3.29	対象のお子さんが**現在の園**に通い始めた時期（一時預かりなどでの利用は除く）をお知らせください。／年
Q21	表なし	対象のお子さんが**現在の園**に通い始めた時期（一時預かりなどでの利用は除く）をお知らせください。／月
Q22	Table3.30	対象のお子さんは 1 日のうち，どのくらいの時間を園で過ごしていますか。平日の平均時間を教えてください。
Q23	Table3.31	現在通っている園で，次のいずれかの個別的な対応や配慮を受けていますか。あてはまるものを【全て】選択してください。
Q24	Table3.32	対象のお子さんは，担任の保育者との関係についてどれくらい満足していますか。 ※ここでの保育者とは，幼稚園教諭・保育教諭・保育士など子どもの幼児教育・保育を直接行う職員を指します。
Q25	同上	対象のお子さんは，園の友だちとの関係についてどれくらい満足していますか。
Q26	Table3.33	対象のお子さんは，園に行くことを楽しみにしていますか。

Q27	Table3.34	**対象のお子さんが通う園の様子について，以下の項目はそれぞれどれくらいあてはまりますか。** ※ここでの保育者とは，幼稚園教諭・保育教諭・保育士など子どもの幼児教育・保育を直接行う職員を指します。
(1)	同上	保育者の子どもへの言葉かけや関わり方が温かい
(2)	同上	保育者は子どもの気持ちを尊重している
(3)	同上	子どもの発達や興味に応じた環境や活動が工夫されている
(4)	同上	保育者は子どもが身の回りのものに興味をもつことを促している
(5)	同上	保育者は子どもの疑問や好奇心をくみ取り遊びに取り入れている
(6)	同上	保育者は子どもが遊びの中で様々なことを試せるようにしている
(7)	同上	子どもは園で自由に好きな遊びをしている
(8)	同上	子どもの保育を十分行ってもらえている
(9)	同上	保育者はあなたのことを気にかけてくれている
(10)	同上	子育てについて相談できる保育者がいる
(11)	同上	子育てについて相談できる（あなたの）友だちが園にいる
(12)	同上	あなたは，子どもが園でどのように過ごしているかを知っている
現在通われている園とのコミュニケーション・活動の頻度についてお聞きします。		
Q28	Table3.35	普段のお子さんの様子や活動についての日常的な会話や個別の連絡の頻度として最も近いものをお選びください。
Q29	同上	保護者会や園だよりの配付など全体的な連絡の頻度として最も近いものをお選びください。
Q30	Table3.36	過去 12 か月（2023 年 5 月 1 日～2024 年 4 月 30 日）の間に，以下のような園の活動に参加しましたか。あてはまるものを【全て】お選びください。
家庭での日常生活についてお聞きします。		
Q31	Table3.43	対象のお子さんの普段の保育（子育て）はどなたがしていますか。あてはまる人を【全て】お選びください。 ※通っている教育・保育施設の保育者も含みます。
Q32	Table3.44	普段の保育（子育て）をしている人のうち，平日のお子さんと一緒にいる時間が一番長いのはどなたですか。 ※睡眠時間は除く
Q33	Table3.37 Table3.38	対象のお子さんの，ここ 1 か月の平均的な起床時刻・就寝時刻等を平日・休日それぞれお答えください。起床時刻・就寝時刻が日によって 1 時間以上差がある場合は「決まっていない」を選んでください。 なお，平日：お子さんが登園する日，休日：お子さんが登園しない日とします。

(1)	Table3.37	平日の起床時刻
(2)	Table3.38	平日の就寝時刻
(3)	Table3.37	休日の起床時刻
(4)	Table3.38	休日の就寝時刻
Q34		※Q33 で「決まっていない」を選択した回答者にのみ表示
(1)	Table3.39-1	対象のお子さんの，平均的な睡眠時間（平日，一日当たり，昼寝時間は除く） ※ここ 1 か月の様子をお答えください。／平日
(2)	Table3.39-2	対象のお子さんの，平均的な睡眠時間（休日，一日当たり，昼寝時間は除く） ※ここ 1 か月の様子をお答えください。／休日
Q35	Table3.40	対象のお子さんの，ここ 1 か月で最も多い就寝状況を教えてください。寝かしつけ時は含まず，寝入った後の状況についてご回答ください。
Q36	Table3.41	対象のお子さんは【休日】（お子さんが登園しない日）にお昼寝されますか。
Q37	Table3.42	対象のお子さんの，ここ 1 か月の【休日】（お子さんが登園しない日）でお昼寝する日の，平均的な昼寝時間はどのくらいですか。
対象のお子さんと保護者の方とが一緒に過ごす時間（1 日当たり）についてお聞きします。		
Q38	Table3.47	父母以外の主たる養育者の方（あなた）が対象のお子さんと一緒に過ごす時間 ※睡眠時間は除く※回答者が父母以外の場合のみ表示
(1)	同上	平日
(2)	同上	休日
Q39	Table3.45	お母さんが対象のお子さんと一緒に過ごす時間 ※睡眠時間は除く
(1)	同上	平日
(2)	同上	休日
Q40	Table3.46	お父さんが対象のお子さんと一緒に過ごす時間 ※睡眠時間は除く
(1)	同上	平日
(2)	同上	休日
対象のお子さんと保護者の方とが一緒に食事をする回数（1 週間当たり）についてお聞きします。 ※間食は含みません。 ※毎日 3 食一緒の場合は 21 回，平日 2 食休日 3 食一緒の場合は 16 回になります。		
Q41	Table3.50	父母以外の主たる養育者の方（あなた）が対象のお子さんと一緒に食事する回数 ※回答者が父母以外の場合のみ表示

Q42	Table3.48	【お母さん】が対象のお子さんと一緒に食事する回数
Q43	Table3.49	【お父さん】が対象のお子さんと一緒に食事する回数
Q44	Table3.65	**【対象のお子さん】についてお聞きします。** 次のことについて，対象のお子さんの現在の様子に最もあてはまると思うものを一つ，「全くあてはまらない」から「とてもあてはまる」の中からお選びください。
(1)	Table3.65-1	自分自身のことが好きである
(2)	同上	自分自身にはいいところがあると思っている
(3)	同上	活動や遊びそれ自体に面白さを見つけて，楽しんでいる
(4)	同上	何かをしているときでも，別の活動に移るよう指示されれば，すぐ切り替える
(5)	同上	うまくいかなくても，やる気を失わない
(6)	同上	やりたいことを自分なりの考えに基づいてやる
(7)	同上	先のことを考えて，今やりたいことを一旦我慢する
(8)	同上	以前した同じ失敗を繰り返さないために，自分の気持ちを抑えたり調整したりしている
(9)	Table3.65-2	他の人の立場にたって物事を考えている
(10)	同上	話し相手に合わせて，伝え方や表現を工夫する
(11)	同上	困っている人や落ち込んでいる人に思いやりを示す
(12)	同上	他の人を助ける
(13)	同上	何が良くて何が悪いかを考えたり，判断したりしている
(14)	同上	ルールや決まりを理解して守っている
(15)	同上	順番や規則を守って遊ぶ
Q45	Table3.66	**「子どもの強さと困難さアンケート」** 以下のそれぞれの項目について，あてはまらない，まああてはまる，あてはまるのいずれかを選択してください。答えに自信がなくても，あるいは，その質問がばからしいと思えたとしても，全部の質問に答えてください。 あなたのお子さんのここ半年くらいの行動について答えてください。 ©Robert Goodman, 2005
(1)	Table3.66-1	他人の気持ちをよく気づかう
(2)	同上	おちつきがなく，長い間じっとしていられない
(3)	同上	頭がいたい，お腹がいたい，気持ちが悪いなどと，よくうったえる
(4)	同上	他の子どもたちと，よく分け合う（おやつ・おもちゃ・鉛筆など）
(5)	同上	カッとなったり，かんしゃくをおこしたりする事がよくある

(6)	同上	一人でいるのが好きで，一人で遊ぶことが多い
(7)	同上	素直で，だいたいは大人のいうことをよくきく
(8)	同上	心配ごとが多く，いつも不安なようだ
(9)	同上	誰かが心を痛めていたり，落ち込んでいたり，嫌な思いをしているときなど，すすんで助ける
(10)	同上	いつもそわそわしたり，もじもじしている
(11)	同上	仲の良い友だちが少なくとも一人はいる
(12)	同上	よく他の子とけんかをしたり，いじめたりする
(13)	Table3.66-2	おちこんでしずんでいたり，涙ぐんでいたりすることがよくある
(14)	同上	他の子どもたちから，だいたいは好かれているようだ
(15)	同上	すぐに気が散りやすく，注意を集中できない
(16)	同上	目新しい場面に直面すると不安ですがりついたり，すぐに自信をなくす
(17)	同上	年下の子どもたちに対してやさしい
(18)	同上	よくうそをついたり，ごまかしたりする
(19)	同上	他の子から，いじめの対象にされたり，からかわれたりする
(20)	同上	自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど）
(21)	同上	よく考えてから行動する
(22)	同上	家や学校，その他から物を盗んだりする
(23)	同上	他の子どもたちより，大人といる方がうまくいくようだ
(24)	同上	こわがりで，すぐにおびえたりする
(25)	同上	ものごとを最後までやりとげ，集中力もある
Q46	Table3.67	**対象のお子さんについてお聞きします。** 現在お子さんは以下のことについて，どれくらいあてはまりますか。分からない場合は，普段の様子から想像してお答えください。 さまざまな発達段階で見られる子どもの行動が含まれていますので，できていなければならないというわけではありません。あまり考えすぎずにありのままを答えましょう。
(1)	Table3.67-1	マナーを守って食事ができる
(2)	同上	脱いだ服を自分でたためる
(3)	同上	活動や遊んだあと，片付けができる
(4)	同上	次の日の準備や朝の支度を自分でしようとする
(5)	同上	好き嫌いなく食事ができる

(6)	同上	指やおはじきなどを使って，数を足したり，引いたりすることができる
(7)	同上	100 を超えた数まで数えられる
(8)	同上	1 から 10 までの数字を書ける
(9)	同上	「1 個」「1 本」などの数え方ができる
(10)	同上	アナログ時計の針を見て，時刻を読むことができる
(11)	Table3.67-2	絵本や物語，図鑑などの本を 1 人で読める
(12)	同上	数行程度の文章を書くことができる
(13)	同上	「あ」から「ん」，濁音（「ば」），半濁音（「ぱ」）の，かな文字を全て読める
(14)	同上	接続詞（「そして」「しかし」など）を使い，文と文の続き方に気をつけて文章を書き表すことができる
(15)	同上	語のまとまりに気をつけて音読できる
(16)	同上	自分の言葉で順序を立てて，相手にわかるように話せる
(17)	同上	「どうしてかというと」など，理由を話すことができる
(18)	同上	相手の話を聞いて内容を捉え，感想を伝え合うことができる
(19)	同上	適切に敬語を使える
(20)	同上	かな文字を全て書ける
Q47	Table3.68	**対象のお子さんについてお聞きします。** 現在お子さんは以下のことについて，どれくらいあてはまりますか。分からない場合は，普段の様子から想像してお答えください。 さまざまな発達段階で見られる子どもの行動が含まれていますので，できていなければならないというわけではありません。あまり考えすぎずにありのままを答えましょう。
(1)	同上	コップに入れた水をこぼさずに運べる
(2)	同上	リズムに合わせてスキップができる
(3)	同上	ジャングルジムの上まで登ることができる
(4)	同上	片足で 10 秒以上立っていることができる
(5)	同上	投げられたボール（ドッジボールなど）を両手で受け取れる
(6)	同上	1000m くらいなら，抱っこやおんぶなしで歩いていける
(7)	同上	補助輪のない自転車に乗れる
(8)	同上	なわとびができる（10 回以上）
(9)	同上	ころびそうになったとき手でかばえる

Q48	Table3.51	**平日・休日それぞれについてお答えください。** 対象のお子さんがご家庭で，一日にデジタル機器（テレビ，スマートフォン，タブレット，PC，ゲーム機を全て合わせて）を利用する時間として最も近いのはどれですか。
(1)	同上	平日
(2)	同上	休日
Q49	Table3.52	**平日・休日それぞれについてお答えください。** 一日にデジタル機器を使って知育・学習コンテンツ（教育番組・教材など）を視聴・利用する時間と，娯楽コンテンツ（動画・ゲームなど）を視聴・利用する時間の割合として，最も近い場所につまみを移動させてください。 ゲージをクリックするとつまみが表示されます。
(1)	Table3.52-1	平日
(2)	Table3.52-2	休日
Q50	Table3.53	**平日・休日それぞれについてお答えください。** 一日にデジタル機器をお子さんが１人で視聴・利用する時間と，誰か（保護者，きょうだいなど）と一緒に視聴・利用する時間の割合として，最も近い場所につまみを移動させてください。 ゲージをクリックするとつまみが表示されます。
(7)	Table3.53-1	平日
(10)	Table3.53-2	休日
Q51	Table3.55	あなたは対象のお子さんに対して，読み聞かせなど，絵本や本を一緒に読むことをどれくらい行っていますか。
Q52	図表なし	対象のお子さんに対して，読み聞かせなどを始めた時期はいつ頃ですか。
Q53	Table3.54	対象のお子さんは平均して１日に何分程度，**一人で**本や絵本を読んでいますか（電子書籍を含みます。漫画や雑誌，教科書や参考書は含みません）。
Q54	Table3.56	現在，対象のお子さんは習い事をしていますか。あてはまるものを【全て】お選びください。
Q55	Table3.63	**過去１年の間に，対象のお子さんとご家族が一緒に以下の体験をした回数を教えてください。**
(1)	同上	キャンプやハイキングなどに出かける
(2)	同上	水族館や動物園などに出かける
(3)	同上	博物館や美術館，音楽鑑賞などに出かける
(4)	同上	遊園地など娯楽施設に出かける
(5)	同上	スポーツ観戦などに出かける

(6)	同上	図書館に行く
Q56	Table3.57	対象のお子さんの学習や能力向上のために，ご家族の方がご家庭で行っていることはありますか（習い事は除く）。あてはまるものを【全て】お選びください。
Q57	Table3.58	対象のお子さんにかかる 1 か月あたりの平均的な教育費（絵本・本・教材，習いごと・通信教育，塾・家庭教師，教育系アプリの利用料など）はどれくらいですか。 ※園の保育料・授業料は含みません。 ※習いごとには親子で習っているものや園・学校で有料で習っているものを含みます。
Q58	Table3.59	あなたは，対象のお子さんにどの段階の学校まで進んでほしいと思いますか。現在のお考えにもっとも近いものを 1 つお選びください。
Q59	Table3.60	あなたは，将来，対象のお子さんに留学（海外学校への進学も含む）をしてほしいと思いますか。
Q60	Table3.61	**対象のお子さんへのあなたご自身の関わりについてお聞きします。**以下の項目それぞれについて，あてはまるものをお選びください。
(1)	同上	遊びや生活の中で，子どもが身の回りの文字に親しめるようにしている（例：ポスターの文字や名前ラベルの文字への子どもの注意を引く）
(2)	同上	遊びや生活の中で，子どもが数量に親しめるようにしている（例：人数を数えたり，積み木の高さを測ることを促す）
(3)	同上	遊びや生活の中で，興味をもった事物を，五感を使って探究できるようにしている（例. 見るだけでなく，触ったり匂いをかいだりすることを促す）
Q61	Table3.62	**家庭における，就学準備的な教育についてお聞きします（習い事は除く）。**以下の項目それぞれについて，どの程度あてはまるかをお選びください。
(1)	同上	小学校に合わせた行動習慣を，家庭で身につけさせている／させようとしている（例：イスに座って作業する，少し長めの大人の話を聞く，集団行動）
(2)	同上	小学校に合わせた生活習慣を，家庭で身につけさせている／させようとしている（例：登校時間に合わせて起床する，時間内に食事を終える，通学路と同じ距離を歩く）
(3)	同上	小学校教科の準備や予習となるものを，家庭で行っている／行おうとしている（例：文字の読み書き，簡単な計算，体育種目の練習）
Q62	Table3.69 Table3.69	**子育てを支えてくれる人（悩みを相談したり，子どもを預けられる人）として，以下の人はどれくらい頼りになりますか。** ※該当する人がいない場合は「全く頼りにならない」をお選びください。
(1)	Table3.69-2	配偶者
(2)	Table3.69-1	あなたの親族（親やきょうだい）
(3)	Table3.69-2	配偶者の親族（親やきょうだい）

(4)	Table3.69-1	友人
(5)	同上	子育て支援センターや児童館，療育センターの先生や職員
(6)	同上	園（保育園，幼稚園，認定こども園など）の先生
(7)	同上	保育ママさんやベビーシッター
Q63	Table3.70	**配偶者の方の家事・育児についてお聞きします。**以下の項目それぞれについて，あてはまるものをお選びください。
(1)	同上	家事（食事の準備・片付け，掃除，洗濯など）
(2)	同上	子育て（世話をする，勉強を見る，遊ぶなど）
(3)	同上	園の先生と話す機会
Q64	Table3.71	**あなたと配偶者のことについてお聞きします。**以下の項目はどれくらいあてはまりますか。
(1)	同上	あなたと配偶者は幸せな結婚生活を送っている
(2)	同上	あなたと配偶者は子どもをどう育てるかについてよく話し合っている
(3)	同上	あなたと配偶者はお互いのこと（仕事や趣味など）をよく話し合っている
(4)	同上	あなたと配偶者は子育てや家事をよく助け合っている
Q65	Table3.64	**あなたは日頃，対象のお子さんと以下のことをどれくらいしていますか。**
(1)	Table3.64-1	時間があるときは，子どもと一緒に遊ぶようにしている
(2)	同上	子どもに対して，自分から積極的に話をする
(3)	同上	子どもが泣いているときでも，落ち着いて，子どもが何を思っているかを気にかける
(4)	同上	時間があるときは，なるべく子どものそばにいるようにする
(5)	同上	子どもが自分に何でも話してくれるように接している
(6)	同上	子どもにイライラして，攻撃的に接することがある
(7)	同上	子どもに自分のストレスや怒りをぶつけてしまうことがある
(8)	同上	子どものふるまいにイライラすることがある
(9)	同上	子どもに，つい命令口調で物事を伝えることがある
(10)	同上	子どもの言動に対して，怒ってしまうことがよくある
(11)	同上	子どもに腹が立ったときに，わざと意地悪なことを言うことがある
(12)	Table3.64-2	子どもが同じ問題を起こしても，怒ったり怒らなかったりすることがある
(13)	同上	子どもが何かに取り組んでいるとき，つい手助けすることがある
(14)	同上	子どもが泣いたり怒ったりしたら，子どもの言うことを聞いてしまう
(15)	同上	子どもが言うことを聞かないときは，あきらめて子どもの言う通りにする

(16)	同上	他の子どもと一緒にいるときに，自分の子どもを特別扱いすることがある
(17)	同上	子どもが泣いているときは，早く泣き止むよう言い聞かせる
(18)	同上	子どもにできないことがあったら，できるようになるまで何度もやらせている
(19)	同上	子どもがルールを破ったら，理由にかかわらず，厳しくしかる
(20)	同上	子どもが失敗しても，甘やかすようなことは言わない
(21)	同上	子どもが決まりを破ったときは，次からは守るように何度も言い聞かせる
対象のお子さんの親・保護者にあたる方の基本情報についてお聞きします。		
Q66	Table3.10	父母以外の主な養育者の方（あなた）の基本情報／年齢 ※回答者が父母以外の場合のみ表示
Q67	Table3.13	父母以外の主な養育者の方（あなた）の基本情報／最終学歴 ※回答者が父母以外の場合のみ表示
Q68	Table3.16	父母以外の主な養育者の方（あなた）の基本情報／職業形態 ※回答者が父母以外の場合のみ表示
Q69	Table3.19	父母以外の主な養育者の方（あなた）の基本情報／1 週間あたりの労働時間数 ※回答者が父母以外の場合のみ表示
Q70	Table3.8	お母さんの基本情報／年齢
Q71	Table3.11	お母さんの基本情報／最終学歴
Q72	Table3.14	お母さんの基本情報／職業形態
Q73	Table3.17	お母さんの基本情報／1 週間あたりの労働時間数
Q74	Table3.9	お父さんの基本情報／年齢
Q75	Table3.12	お父さんの基本情報／最終学歴
Q76	Table3.15	お父さんの基本情報／職業形態
Q77	Table3.18	お父さんの基本情報／1 週間あたりの労働時間数
Q78	Table3.20	あなたのご家族全体の世帯収入（税込み年収）は次のどれにあてはまりますか。 また，そのうち，あなたの年収は次のどれにあてはまりますか。
(1)	同上	世帯年収
(2)	同上	世帯年収のうちあなたの収入